

各施設の評価

対象施設一覧

分類	ID	施設名	ページ	分類	ID	施設名	ページ	分類	ID	施設名	ページ	
市民文化系施設 (9)	1	たけまるホール	160	高齢福祉施設 (6)	401	デイサービスセンター幸楽	218	学童保育所 (27)	1301	生駒1学童保育所	290	
	2	やまびこホール	161		402	デイサービスセンター寿楽	219		1302	生駒2学童保育所	291	
	3	鹿ノ台ふれあいホール	162		406	RAKU-RAKUIはうす	220		1303	生駒3学童保育所	292	
	4	図書館	163		407	金鶏の杜優苑	221		1304	生駒南A学童保育所	293	
	5	コミュニティセンター	164		408	あすか野介護予防拠点施設	222		1305	生駒南B学童保育所	294	
	6	南コミュニティセンター	165		409	介護老人保健施設 やすらぎの杜優楽	223		1306	生駒北学童保育所	295	
	7	北コミュニティセンター	166		その他福祉施設 (4)	11	人権文化センター		226	1307	生駒台1学童保育所	296
	8	芸術会館美楽来	167			12	人権文化センター別館		227	1308	生駒台2学童保育所	297
	9	ふるさとミュージアム	168			410	小平尾南児童館		228	1309	生駒東1学童保育所	298
図書館 (5)	101	生駒駅前図書室	170	411		福祉センター	229		1310	生駒東2学童保育所	299	
	102	生駒市図書館	171	自動車駐車場 (3)	501	生駒駅南自動車駐車場	232		1311	真弓1学童保育所	300	
	103	図書館北分館	172		502	ベルテラスいこま自動車駐車場	233		1312	真弓2学童保育所	301	
	104	図書館南分館	173		503	生駒駅北地下自動車駐車場	234		1313	俣口1学童保育所	302	
	105	鹿ノ台ふれあいホール図書室	174	自転車駐車場 (6)	601	生駒駅前第1自転車駐車場	236		1314	俣口2学童保育所	303	
体育館等 (9)	201	生駒北スポーツセンター体育館	176		602	生駒駅前第2自転車駐車場	237		1315	鹿ノ台1学童保育所	304	
	202	北大和体育館	177		603	生駒駅南自転車駐車場	238		1316	鹿ノ台2学童保育所	305	
	203	市民体育館	178		604	生駒駅北自転車駐車場	239		1317	桜ヶ丘1学童保育所	306	
	204	小平尾南体育館	179		605	生駒駅前第4自転車駐車場	240		1318	桜ヶ丘2学童保育所	307	
	205	井出山体育館	180		607	谷田第2自転車駐車場	241		1319	桜ヶ丘3学童保育所	308	
	206	総合公園体育館	181	供給処理施設 (3)	701	エコパーク21	244		1320	あすか野1学童保育所	309	
	207	むかいやま公園体育館	182		702	清掃センター	245		1321	あすか野2学童保育所	310	
	208	武道館	183		703	清掃リレーセンター	246		1322	あすか野3学童保育所	311	
	209	井出山屋内温水プール	185	公営住宅 (5)	801	元町住宅	248		1323	あすか野4学童保育所	312	
210	イモ山公園プール	186	802		第2元町住宅	249	1324		壱分1学童保育所	313		
211	滝寺公園プール	187	803		緑ヶ丘住宅	250	1325		壱分2学童保育所	314		
グラウンド (10)	212	生駒北スポーツセンターグラウンド	188		804	小平尾桜ヶ丘住宅	251		1326	壱分3学童保育所	315	
	213	北大和グラウンド	189		805	再開発住宅	252		1327	生駒南第二学童保育所	316	
	214	小平尾南少年グラウンド	190	小学校 (11)	901	生駒小学校	254	消防施設 (8)	1401	消防本部・消防署	318	
	215	井出山グラウンド	191		902	生駒南小学校	255		1402	消防署北分署	319	
	216	イモ山公園グラウンド	192		903	生駒台小学校	256		1403	消防署南分署	320	
	217	総合公園グラウンド	193		904	生駒東小学校	257		1404	消防署救急施設 (旧消防署東分署)	321	
	218	生駒市健民グラウンド	194		905	真弓小学校	258		1405	消防団機動第1分団	322	
	219	むかいやま公園グラウンド	195		906	俣口小学校	259		1406	消防団機動第2分団	323	
	227	生駒北スポーツセンター野球場	196		907	鹿ノ台小学校	260		1407	消防団機動第3分団 (旧消防署南分署)	324	
	228	北大和野球場	197		908	桜ヶ丘小学校	261		1408	消防団機動第4分団	325	
229	総合公園相撲場	184	909		あすか野小学校	262	その他施設 (13)	1501	生駒市役所	328		
プール (3)	209	井出山屋内温水プール	185		910	壱分小学校		263	10	市民活動推進センター ららぽーと	329	
	210	イモ山公園プール	186		911	生駒南第二小学校		264	1502	アコールいこまやい館	330	
	211	滝寺公園プール	187	小中学校(1)	1101	生駒北小中学校		265,275	1503	アンテナショップおちやせん	331	
グラウンド (10)	212	生駒北スポーツセンターグラウンド	188	中学校 (7)	1001	生駒中学校		268	1504	市営火葬場	332	
	213	北大和グラウンド	189		1002	生駒南中学校		269	1505	セラビーいこま	333	
	214	小平尾南少年グラウンド	190		1003	緑ヶ丘中学校		270	1506	生駒市立病院	334	
	215	井出山グラウンド	191		1004	鹿ノ台中学校		271	1507	教育支援施設	335	
	216	イモ山公園グラウンド	192		1005	上中学校		272	1508	学校給食センター	336	
	217	総合公園グラウンド	193		1006	光明中学校		273	1510	旧門前町児童会館	337	
	218	生駒市健民グラウンド	194		1007	大瀬中学校		274	1512	旧真弓学童保育所	338	
	219	むかいやま公園グラウンド	195	幼稚園 保育所 こども園 (11)	1201	なばた幼稚園		278	1513	旧桜ヶ丘1学童保育所	339	
	227	生駒北スポーツセンター野球場	196		1202	生駒台幼稚園		279	1514	生駒北学校給食センター	340	
	228	北大和野球場	197		1203	俣口幼稚園	280					
229	総合公園相撲場	184	1204		あすか野幼稚園	281						
テニスコート (7)	220	生駒北スポーツセンターテニスコート	198		1205	桜ヶ丘幼稚園	282					
	221	浄化センターテニスコート	199		1206	壱分幼稚園	283					
	222	イモ山公園テニスコート	200		1207	ひがし保育園	284					
	223	総合公園テニスコート	201		1208	小平尾保育園	285					
	224	滝寺公園テニスコート	202		1209	中保育園	286					
	225	生駒山麓公園テニスコート	203		1210	認定こども園生駒幼稚園	287					
	226	むかいやま公園テニスコート	204		1211	南こども園	288					
その他スポーツ施設 (4)	230	生駒北スポーツセンター研修棟	205									
	231	生駒北スポーツセンター宿泊棟	206									
	232	生駒北スポーツセンタークラブハウス	207									
	233	生駒北スポーツセンター管理人用宿舎	208									
レクリエーション・観光施設 (6)	301	高山竹林園	210									
	302	歓喜乃湯足湯	211									
	303	生駒山麓公園野外活動センター	212									
	304	生駒山麓公園ふれあいセンター	213									
	305	生駒山麓公園フィールドアスレチック	214									
	306	花のまちづくりセンター	215									

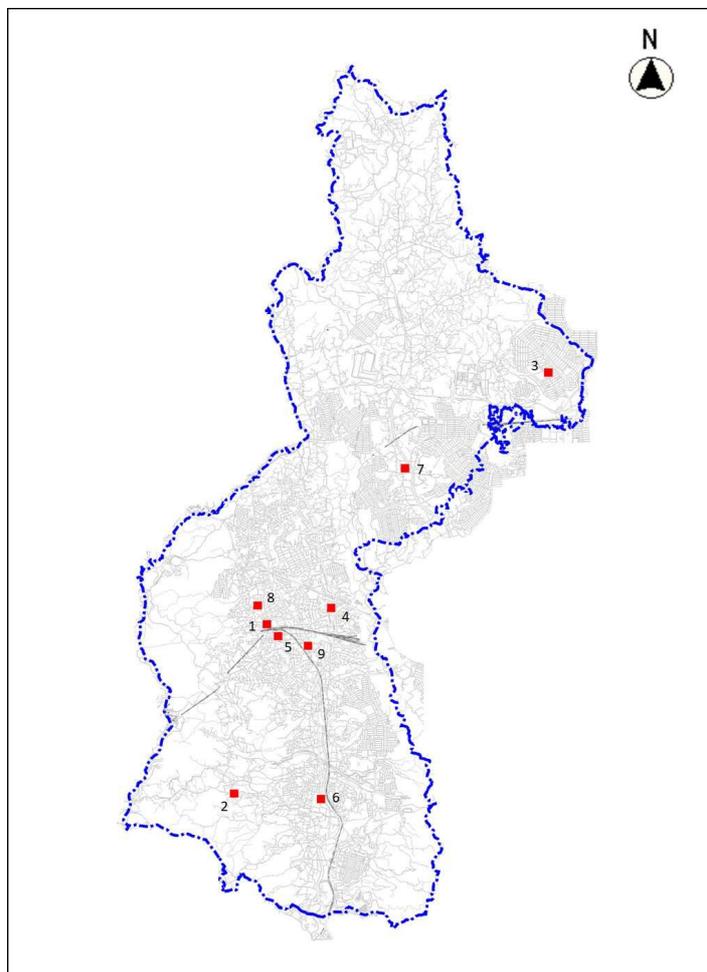
市民文化系施設

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能※1	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積※2 (公会堂・市民会館・公民館の合計値)	生駒市	0.24㎡/人	類団 平均	全体	0.16㎡/人
				合併市	0.19㎡/人
				合併市を除く	0.14㎡/人
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

※1 コミュニティセンターについては不可能

※2 (出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
1	たけまるホール
2	やまびこホール
3	鹿ノ台ふれあいホール
4	図書会館
5	コミュニティセンター
6	南コミュニティセンター
7	北コミュニティセンター
8	芸術会館美楽来
9	ふるさとミュージアム

施設分類全体の方針

類似団体と比較し人口1人あたりの延床面積が大きいこと、将来人口推計では40年後に総人口が23.0%減少することから、施設の総量を削減する必要があります。
コミュニティセンターなど広く市民が利用する施設については、他用途を受け入れて複合化を図ることにより総量を削減します。また、利用が地域住民に限定される施設については、譲渡や運営形態の見直し等を検討します。

ID	1	施設名	たけまるホール
施設分類	市民文化系施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	50.0	49.9	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	49.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	67.2	63.1	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	59.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	51.0	53.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.5		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

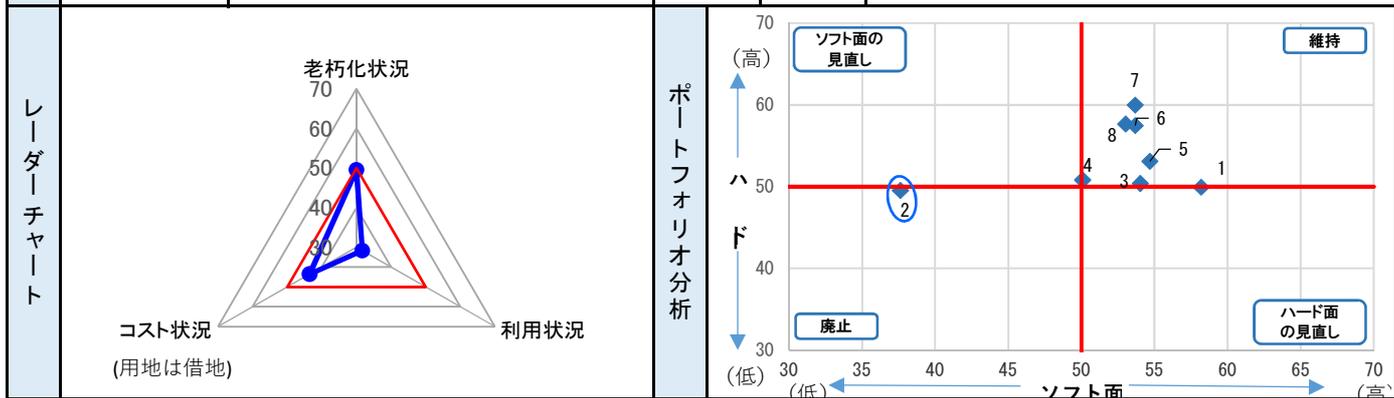
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	約1,000人を収容できる規模のホールを有し、かつ生駒駅から徒歩で約2分の場所に位置する利便性が良い施設は他にないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	生駒中学校が土砂災害特別警戒区域にあり、風水害が発生する際は、生駒中学校近隣の住民が避難する施設になるとともに、生駒駅から最も近い施設であり、帰宅困難者の一時待機所となるため、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	ホール・集会施設は地域施設であるが、たけまるホールは、施設の規模から市域・拠点施設に相当する施設である。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	1,000人規模を収容できるホールは市内でたけまるホールのみであり、市の生涯学習施設の拠点となる施設である。		

ID	2	施設名	やまびこホール
施設分類	市民文化系施設		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	50.9	49.5 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	43.9	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	28.7	31.7 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	34.7	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	55.8	43.5 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	31.3	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内には南コミュニティセンターが近隣にあること、地元5自治会にはそれぞれ集会所があることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	現在、地元5自治会が指定管理者である。なお、主に地域住民が利用している施設である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地域施設
補足⑤	急傾斜地の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	市民文化系施設は、様々な年齢・地域の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	敷地の賃借料が発生し、コスト状況が悪く、また、利用者はほぼ地域住民が占め利用状況も悪いことから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	本施設を利用するほとんどの人が地域住民であり、利用状況が悪く、また地元の5自治会にはそれぞれ集会所があることから、集会所としての用途を廃止する。集会所以外の集会所施設を利用する場合は、近隣に南コミュニティセンターがあることから、本施設の代わりに利用することができる。		

ID	3	施設名	鹿ノ台ふれあいホール(図書館部分を除く)
施設分類	市民文化系施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.0	50.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	48.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
耐震性能			0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	52.4	61.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	70.4		=利用者数/延床面積
ソフト面	コスト状況	延床面積あたりコスト	38.7	46.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.6		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに集会施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。ただし、近隣の他施設まで約6kmである。	補足②	主に地域住民が利用している施設である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に鹿ノ台小学校、鹿ノ台中学校があり、機能移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市民文化系施設は、様々な年齢・地域の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	本施設は、主に地域住民が使用している施設であることから、運営形態の見直しを検討する。		

ID	4	施設名	図書館(図書館部分を除く)
施設分類	市民文化系施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.8	50.8 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	47.0	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	47.8	46.5 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	45.2	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.5	53.7 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	53.9	
レーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにホールを併せ持つ集会施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者の増加を図るなどの見直しが必要である。また、他用途の受け入れは可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に桜ヶ丘小学校があり、機能移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市民文化系施設は、様々な年齢・地域の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	本施設は利用状況の改善が必要であることから、集会施設以外の用途を受け入れる等、活性化に向けた検討を行う。		

ID	5	施設名	コミュニティセンター
施設分類	市民文化系施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	54.1	53.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	49.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	56.9	51.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	45.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.5	58.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.4		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	不可能
補足①	利用圏域内にはほかにホールを併せ持つ集会施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	他の団体と共有で所有している施設であるため、地元や民間等を活用することは不可能であるが、他用途の受け入れは可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	生駒駅に近く、近隣住民の避難者だけでなく、帰宅困難者の一時待避所となるため、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市民文化系施設は、様々な年齢・地域の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	生駒駅や市役所から近く利便性の高い場所に位置する施設であることから、利用状況を考慮しながら、集会施設以外の用途の受け入れを検討する。		

ID	6	施設名	南コミュニティセンター(図書館部分を除く)
施設分類	市民文化系施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	58.7	57.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	52.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	51.9	52.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	52.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	54.7	55.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.7		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

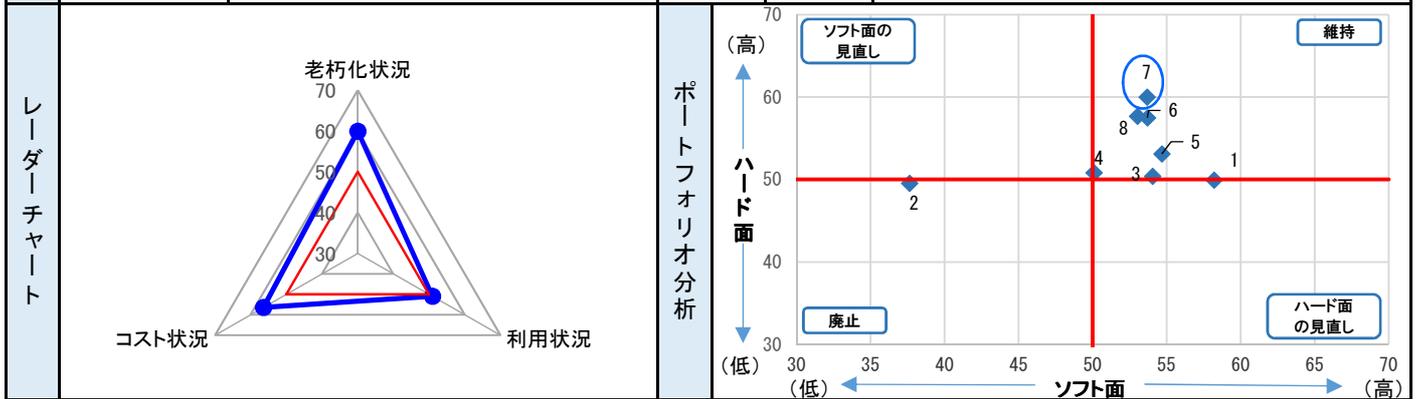
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにホールを併せ持つ集会施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	大阪府側から奈良県につながる国道308号に近い施設であり、交通機関がマヒした場合、徒歩での帰宅者の一時避難所となる。また、施設の規模も大きく、学校への避難者を本施設に集約することで学校の早期再開を実現することができるため、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地域施設
補足⑤	浸水想定区域「～0.5m未満の区域(地下進入路については～5.0m未満)」に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト体制を要する。	補足⑥	市民文化系施設は、様々な年齢・地域の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	7	施設名	北コミュニティセンター(図書館部分を除く)
施設分類	市民文化系施設		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	61.0	60.0 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	55.9	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	54.3	51.0 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	47.6	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	57.0	56.4 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.7	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにホールを併せ持つ集会施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に真弓小学校があるが、地下を防災倉庫としていることから、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市民文化系施設は、様々な年齢・地域の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	8	施設名	芸術会館美楽来
施設分類	市民文化系施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	58.7	57.7 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	53.5	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	49.1	51.7 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.4	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.2	54.4 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.5	
レーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	美術品収蔵設備と展示室を併せ持つ施設は他にないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣の生駒中学校が土砂災害特別警戒区域内にあり、風水害が発生する際は、本施設が緊急避難場所となるため、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	9	施設名	ふるさとミュージアム
施設分類	市民文化系施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	—	—	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	—		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	41.8	41.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	40.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	26.5	28.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	31.4		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポータルフォリオ分析	※登録有形文化財であるため、ハード面の評価は行わない。	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	建物自体が登録有形文化財(建造物)に登録されている価値の高い施設であるため、建物と用途の分離は不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

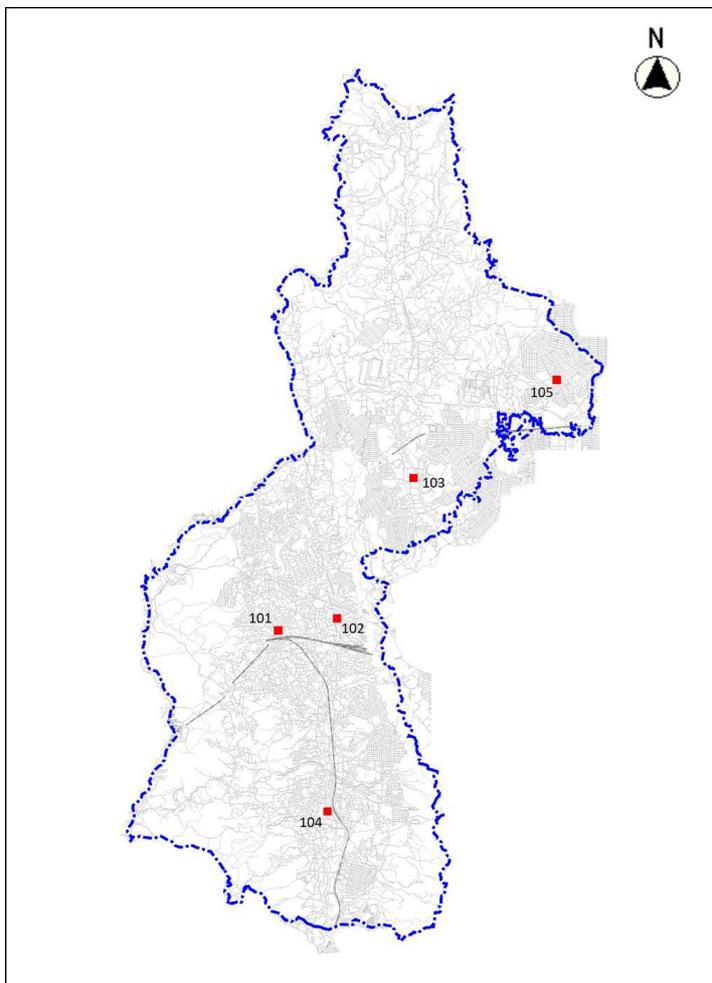
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	登録有形文化財(建造物)であり、文化財としての価値が高く、歴史文化学習の拠点となる施設である。		

図書館

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積※	生駒市	0.033㎡/人	類団平均	全体	0.036㎡/人
				合併市	0.046㎡/人
				合併市を除く	0.032㎡/人
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

※(出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
101	生駒駅前図書室
102	生駒市図書館
103	図書館北分館
104	図書館南分館
105	鹿ノ台ふれあいホール図書室

施設分類全体の方針

将来人口推計では40年後に総人口が23.0%減少しますが、地域の文化を支える機関として重要な施設であり、本計画期間内は面積を維持します。
ただし、用途については、運営方法の見直しを検討します。

ID	101	施設名	生駒駅前図書室
施設分類	図書館		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	67.0	66.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	66.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	67.6	65.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	63.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	38.1	44.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	51.6		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内にほかの図書館はあるが、生駒駅前に立地し利便性が良く、利用人数も多いことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者制度の導入など、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、駅前に立地しており、利便性が高いことから、引き続き一定数の利用があるものと考えられる。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	図書館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	102	施設名	生駒市図書館
施設分類	図書館		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.8	50.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	39.1	36.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	34.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	38.5	34.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	30.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内に資料の収集・保存機能を担える他施設がないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。ただし、本の貸し出し、閲覧機能は移転できる。	補足②	指定管理者制度の導入など、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	避難所指定されている図書館内に配置された施設である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	図書館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	103	施設名	図書館北分館
施設分類	図書館		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	61.0	60.0	= 経過年数 / 法定耐用年数
		資産老朽化比率	55.9		= 減価償却累計額 / (取得価額 + 過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	53.3	54.2	= 年間利用コマ数 / 年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	55.2		= 利用者数 / 延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	58.6	58.0	= 年間総コスト / 延床面積
		利用者あたりコスト	57.4		= 年間総コスト / 利用者数
レーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内にほかに図書館機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度の導入など、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	避難所指定されている北コミュニティセンター内に配置された施設である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	図書館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	104	施設名	図書館南分館
施設分類	図書館		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	58.7	57.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	52.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	47.5	45.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	43.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	62.0	59.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か		指標②	地元や民間等を活用することは可能か	
評価①	可能		評価②	可能	
補足①	利用圏域内にほかに図書館機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。		補足②	指定管理者制度の導入など、民間活用を検討することができる。	
指標③	将来の利用見込みはどうか		指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か	
評価③	減少		評価④	指定されていない	
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。		補足④	避難所指定されている南コミュニティセンター内に配置された施設である。	
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか		指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか	
評価⑤	該当する		評価⑥	地域施設	
補足⑤	浸水想定区域「～0.5m未満の区域(地下進入路については～5.0m未満)」に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト体制を要する。		補足⑥	図書館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。	

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	105	施設名	鹿ノ台ふれあいホール図書室
施設分類	図書館		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	55.8	54.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	48.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	42.5	47.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	52.5		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.9	53.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.2		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内にほかに図書館機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	主に地域住民が利用している施設であるため、検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	避難所指定されている鹿ノ台ふれあいホール内に配置された施設である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	図書館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

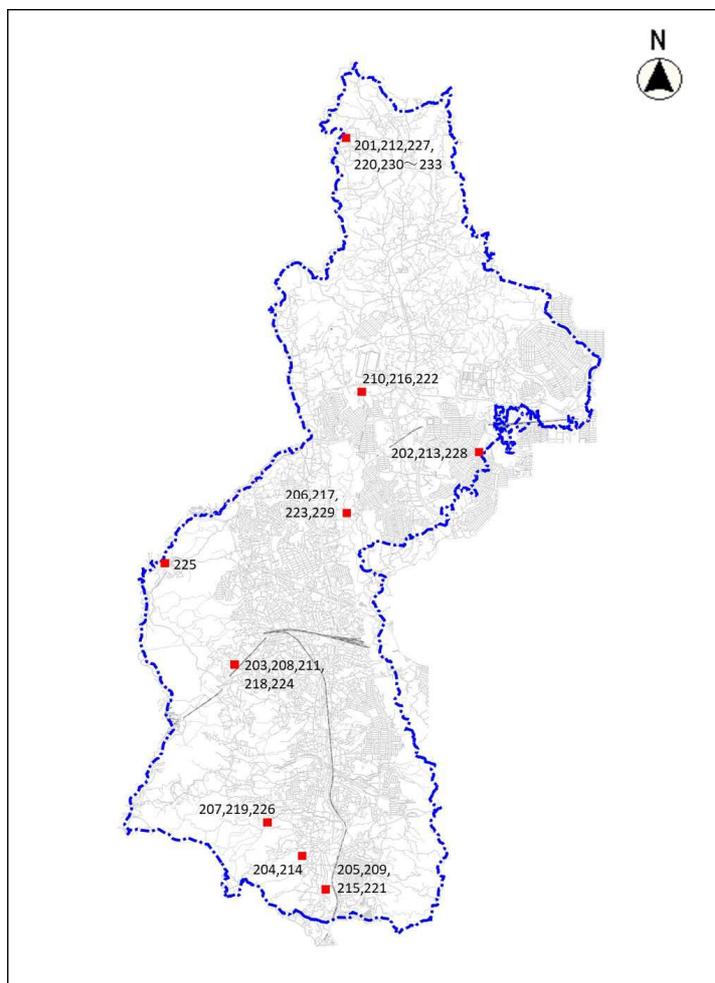
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	鹿ノ台小学校区の住民の利用が約9割を占めることから、地域住民との協働による運営など、運営方法の見直しを検討する。		

スポーツ施設

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積※ (体育館の延床面積)	生駒市	0.11㎡/人	類団 平均	全体	0.12㎡/人
				合併市	0.20㎡/人
				合併市を除く	0.08㎡/人
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

※(出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
201,212,227, 220,230~233	生駒北スポーツセンター (体育館、グラウンド、野球場、テニスコート、研修棟、宿泊棟、クラブハウス、管理人用宿舎)
202,213,228	北大和体育施設 (体育館、グラウンド、野球場)
203,208,211, 218,224	滝寺公園体育施設 (体育館、武道館、プール、グラウンド、テニスコート)
204,214	小平尾南体育施設 (体育館、グラウンド)
205,209,215,221	井出山体育施設 (体育館、プール、グラウンド、テニスコート)
206,217,223,229	総合公園体育施設 (体育館、グラウンド、テニスコート、相撲場)
207,219,226	むかひやま公園体育施設 (体育館、グラウンド、テニスコート)
210,216,222	イモ山公園体育施設 (プール、グラウンド、テニスコート)
225	生駒山麓公園テニスコート

施設分類全体の方針

将来人口推計では、40年後に総人口が23.0%減少することから、スポーツ施設全体の総量を削減する必要があります。また、多くのスポーツ施設で老朽化が進行しているため、スポーツ施設全体のあり方を検討する必要がありますが、スポーツ施設は、市民の健康づくり・生きがいくりという面から重要な施設であるため、より効果的で利便性の高い施設となるよう、更新・集約化を含めて検討を行います。それまでは、改修や更新は実施せず、利用者が安全に施設を使用できるよう修繕を行っていきます。

ID	201	施設名	生駒北スポーツセンター体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	41.9	47.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	67.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	38.8	38.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	38.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.3	43.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	31.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに体育館機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者や収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について、本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	購入して間もない施設であり、評価には時間を要する。ただし、ソフト面には改善の余地があることから、利用率の向上に向けた取組を行う。		

ID	202	施設名	北大和体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.2	44.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	37.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	58.1	63.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	68.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.5	54.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	49.0		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		<p>ポータルフォリオ分析</p>		
	<p>リーダーチャート</p>				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに体育館機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	203	施設名	市民体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	44.4	43.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	41.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	55.4	52.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	49.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	37.3	44.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	51.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				
ポータルフォリオ分析					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	フロア面積1,620㎡、観客席は756人収容できる規模を有する施設は他にないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。なお、駐車場部分は奈良県消防防災ヘリコプター等飛行場外離着陸場となっているとともに応急仮設住宅建設候補地となっているため、機能を確保する必要がある。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	204	施設名	小平尾南体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価						
評価項目			偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.8	41.7	=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率	37.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10		
ソフト面	利用状況	稼働率	53.4	57.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数	
		延床面積あたりの利用者数	61.3		=利用者数/延床面積	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	39.2	44.4	=年間総コスト/延床面積	
		利用者あたりコスト	49.6		=年間総コスト/利用者数	
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出					
			ポータルフォリオ分析			

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内には井出山体育館及びむかいやま公園体育館が近隣にあること、体育館の中ではアリーナ面積が小さいことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に生駒南第二小学校があり、機能移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新又は 経年劣化に基づく改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	体育館の中で老朽化が最も進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	利用状況は良いが、井出山体育館及びむかいやま公園体育館が近隣にあること、体育館の中ではアリーナ面積が小さいことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。		

ID	205	施設名	井出山体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.0	46.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	41.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	53.8	53.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	53.3		=利用者数/延床面積
ソフト面	コスト状況	延床面積あたりコスト	68.2	69.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	71.5		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				
			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに体育館機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に生駒南第二小学校があり、機能移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	206	施設名	総合公園体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.7	47.2	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	41.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	57.3	54.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	51.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.8	51.6	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	52.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに体育館機能を持つ他施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	地域防災拠点(物資輸送拠点)となっているため、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	207	施設名	むかいやま公園体育館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.8	53.6	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	52.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	58.3	51.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	44.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.7	46.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	41.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				
			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに体育館機能を持つ他施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	体育館は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とするが、体育館は市内に7か所あり、そのほとんどが老朽化していることから、体育施設全体のあり方を検討する。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	208	施設名	武道館
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	45.3	43.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	35.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	48.0	48.8	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	49.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	37.3	44.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	51.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	市内で唯一、武道館としての機能を有している施設であるため、移転は不可能である。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者や収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	体育施設全体の今後のあり方について本計画期間内に検討を行う。必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	229	施設名	総合公園相撲場
施設分類	スポーツ施設(体育館等)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	52.1	49.9	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	40.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	27.0	30.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	34.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.8	51.6	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	52.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		<p>ポータルフォリオ分析</p>		
リーダーチャート	<p>老朽化状況</p> <p>コスト状況</p> <p>利用状況</p>				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	市内に土俵のある施設は他にないため、代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	市内で唯一の相撲場であることから、用途を維持する。		

ID	209	施設名	井出山屋内温水プール
施設分類	スポーツ施設(プール)		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	62.2	61.6 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	59.4	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	64.1	63.7 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	63.2	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	62.9	63.3 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	63.7	
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出			

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	市内で唯一の屋内温水プールであり、利用者数が多いことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	幅広い世代の市民が利用することから、地形・利用状況を踏まえた配置が必要である。ただし、本施設は屋内プールであるため、年中使用できる。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	210	施設名	イモ山公園プール
施設分類	スポーツ施設(プール)		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	31.4	32.8 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	38.6	
	耐震性能	-10.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	42.9	45.4 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	47.9	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	48.5	44.2 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	40.0	
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポर्टフォリオ分析	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに遊泳できるプール施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者や収入の増加を図り指定管理料を削減するなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	幅広い世代の市民が利用するが、開設日数が限定的であり、コスト面の評価が低いことから、地形・利用状況を踏まえた配置が必要である。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	211	施設名	滝寺公園プール
施設分類	スポーツ施設(プール)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	25.6	27.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	36.7		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		-10.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	42.9	40.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	38.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	38.6	42.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	46.3		=年間総コスト/利用者数
レダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内に、ほかに遊泳できるプール施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地域施設
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	幅広い世代の市民が利用するが、開設日数が限定的であり、コスト面の評価が低いことから、地形・利用状況を踏まえた配置が必要である。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	他施設より規模が大きく多額の修繕費が必要であるため、経年劣化による修繕や長寿命化ができておらず老朽化が進んでいること、維持すれば今後も多額の修繕費が必要であることから、プール施設を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	プール施設の中で利用状況が最も悪い施設である。利用圏域内には、ほかにプール施設があることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。		

ID	212	施設名	生駒北スポーツセンターグラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	60.0	55.1	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	50.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	55.5	45.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	35.6		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	生駒北スポーツセンターの各施設は自衛隊及び緊急消防援助隊等の受入拠点(連絡事務所、宿舍、車両・重機材駐車場等)、奈良県消防防災ヘリコプター等飛行場外離着陸場のほか応急仮設住宅建設候補地となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	購入して間もない施設であり、評価には時間を要する。ただし、ソフト面には改善の余地があることから、利用率の向上に向けた取組を行う。		

ID	213	施設名	北大和グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率			=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	40.6	42.8	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	45.0		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.0	55.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	51.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	本施設は、「北大和グラウンド低炭素まちづくり事業」を実施するため廃止する。ただし、事業実施の目途が立つまで市民に開放していることから、事業を再開するまではグラウンドの設備を維持する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	「北大和グラウンド低炭素まちづくり事業」が再開するまでは用途を維持し、事業再開後は、本施設の代わりに利用圏内のほかのグラウンドの利用を検討する。		

ID	214	施設名	小平尾南少年グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	51.2	60.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	69.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	36.2	44.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	52.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあり、さらに近隣に井出山グラウンド及びむかいやま公園グラウンドがあることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	コスト状況が悪く、また隣接の小平尾南体育館を廃止しグラウンド機能だけになることから、コスト状況の改善を図るため運営形態の見直しを検討する。		

ID	215	施設名	井出山グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	49.8	45.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	41.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	68.7	70.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	72.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	井出山体育館が避難所となっており、その機能を補完する施設となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	216	施設名	イモ山公園グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率			=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	57.7	53.8	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	49.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	48.1	47.6	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	47.1		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	後方支援拠点及び応急仮設住宅建設候補地となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	217	施設名	総合公園グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	52.9	50.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	47.5		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	49.2	52.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	地域防災拠点(物資輸送拠点)となっているとともに応急仮設住宅建設候補地及び広域避難者受入のための拠点避難所の指定となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	218	施設名	生駒市健民グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	52.2	59.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	66.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	34.1	43.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	53.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	後方支援拠点及び応急仮設住宅建設候補地となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地域施設
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	219	施設名	むかいやま公園グラウンド
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	51.0	47.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	44.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	49.1	46.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	44.7		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

老朽化状況

コスト状況

利用状況

ソフト面の見直し

212 213 214 215 216 217 218 219 227 228

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにグラウンドがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者や収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	むかいやま公園体育館が避難所であり、その機能を補完する施設である。また、奈良県消防防災ヘリコプター等飛行場外離着陸場及び応急仮設住宅建設候補地にもなっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	グラウンドは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	227	施設名	生駒北スポーツセンター野球場
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率			=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	24.7	30.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	36.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	55.5	45.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	35.6		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にある北大和野球場の機能の一部を移転させる目的で購入しているため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者や収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	生駒北スポーツセンターの各施設は自衛隊及び緊急消防援助隊等の受入拠点(連絡事務所、宿舎、車両・重機材駐車場等)、奈良県消防防災ヘリコプター等飛行場外離着陸場のほか応急仮設住宅建設候補地となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	野球場は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	ソフト面が非常に悪いが、北大和野球場を廃止した後は、同球場の用途を移転させる予定である。		

ID	228	施設名	北大和野球場
施設分類	スポーツ施設(グラウンド)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率			=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	59.8	54.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	49.0		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.0	55.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	51.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに野球場機能を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	野球場は、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	本施設は、「北大和グラウンド低炭素まちづくり事業」を実施するため廃止する。ただし、事業実施の目的が立つまで市民に開放していることから、事業を再開するまでは野球場の設備を維持する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	「北大和グラウンド低炭素まちづくり事業」が再開するまでは用途を維持し、事業再開後は、本施設の代わりに利用圏域内のほかの野球場及びグラウンドの利用を検討する。		

ID	220	施設名	生駒北スポーツセンターテニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	32.3	32.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	31.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.4	47.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	38.5		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	購入して間もない施設であり、評価には時間を要する。ただし、ソフト面には改善の余地があることから、利用率の向上に向けた取組を行う。		

ID	221	施設名	浄化センターテニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	54.0	58.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	63.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	66.6	68.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	69.6		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるが、本施設は利用状況が良い。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	222	施設名	イモ山公園テニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率			=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	60.8	53.8	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	46.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.7	49.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	48.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるが、本施設は利用状況が良い。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	223	施設名	総合公園テニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	58.1	56.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	55.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	51.6	53.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるが、本施設は利用状況が良い。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	224	施設名	滝寺公園テニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率			=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率			=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	57.9	56.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	39.9	46.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	53.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるが、本施設は利用状況が良い。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地域施設
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	225	施設名	生駒山麓公園テニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	38.9	40.1	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	41.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	33.3	36.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	38.6		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、コストや利用状況が悪く、利用者や収入の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	利用状況、コスト状況ともに悪いため、テニスコートの設備を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	テニスコートとしての用途を廃止する。ただし、指定管理者の自主事業による運営が可能である場合は、自主事業での活用を検討する。		

ID	226	施設名	むかひやま公園テニスコート
施設分類	スポーツ施設(テニスコート)		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率		=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
	耐震性能			耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	48.1	52.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	57.8		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	51.5	48.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	46.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにテニスコートがあるが、本施設は利用状況が良い。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	テニスコートは、幅広い世代の市民が利用する施設であることから、生駒市の地形に配慮し北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置を基本とする。

1次評価+2次評価のまとめ			
設備	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	230	施設名	生駒北スポーツセンター研修棟
施設分類	スポーツ施設(その他)		

1次評価															
評価項目			偏差値	評価値	備考										
ハード面	老朽化状況	老朽化率	41.9	46.8	=経過年数/法定耐用年数										
		資産老朽化比率	66.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)										
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10										
ソフト面	利用状況	稼働率			=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数										
		延床面積あたりの利用者数			=利用者数/延床面積										
	コスト状況	延床面積あたりコスト			=年間総コスト/延床面積										
		利用者あたりコスト			=年間総コスト/利用者数										
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ハード面の見直し</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>ハード面の見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>230</td> <td>46.8</td> </tr> <tr> <td>231</td> <td>41.9</td> </tr> <tr> <td>232</td> <td>66.1</td> </tr> <tr> <td>233</td> <td>0.0</td> </tr> </tbody> </table>		施設ID	ハード面の見直し	230	46.8	231	41.9	232	66.1	233	0.0
施設ID	ハード面の見直し														
230	46.8														
231	41.9														
232	66.1														
233	0.0														

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	指定管理者が自主事業としてバルサアカデミー(サッカー学校)の事務局として使用しているが、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。ただし、指定管理者の自主事業による運営が可能である場合は、指定管理期間に限り維持を検討する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	用途を廃止する。ただし、指定管理者の自主事業による運営が可能である場合は、指定管理期間に限り自主事業での活用を検討する。		

ID	231	施設名	生駒北スポーツセンター宿泊棟
施設分類	スポーツ施設(その他)		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.5	51.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	67.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
耐震性能			-10.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率			=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数			=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト			=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト			=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート	*コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	使用実績はなく、今後も使用が見込めない。	補足②	現時点で使用しておらず、今後も使用が見込めない。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	現在使用しておらず、今後も使用予定がないため、建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	現在使用しておらず、今後も使用予定がない。		

ID	232	施設名	生駒北スポーツセンタークラブハウス
施設分類	スポーツ施設(その他)		

1次評価														
評価項目		偏差値	評価値	備考										
ハード面	老朽化状況	老朽化率	41.9	47.0	=経過年数/法定耐用年数									
		資産老朽化比率	67.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)									
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10										
ソフト面	利用状況	稼働率			=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数									
		延床面積あたりの利用者数			=利用者数/延床面積									
	コスト状況	延床面積あたりコスト			=年間総コスト/延床面積									
		利用者あたりコスト			=年間総コスト/利用者数									
リーダーチャート	*コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ハード面の見直し</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>230</td> <td>47.0</td> </tr> <tr> <td>231</td> <td>41.9</td> </tr> <tr> <td>232</td> <td>47.0</td> </tr> <tr> <td>233</td> <td>28.0</td> </tr> </tbody> </table>	施設ID	評価値	230	47.0	231	41.9	232	47.0	233	28.0
施設ID	評価値													
230	47.0													
231	41.9													
232	47.0													
233	28.0													

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	使用実績がないことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	使用実績は今までなかったが、指定管理者から自主事業として使用の提案がある。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。ただし、指定管理者の自主事業による運営が可能である場合は、指定管理期間に限り自主事業での活用を検討する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止 用途を廃止する。ただし、指定管理者の自主事業による運営が可能である場合は、指定管理期間に限り自主事業での活用を検討する。		

ID	233	施設名	生駒北スポーツセンター管理人用宿舎
施設分類	スポーツ施設(その他)		

1次評価															
評価項目			偏差値	評価値	備考										
ハード面	老朽化状況	老朽化率	30.9	37.8	=経過年数/法定耐用年数										
		資産老朽化比率	65.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)										
	耐震性能		-10.0		耐震基準を満たしていなければ-10										
ソフト面	利用状況	稼働率			=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数										
		延床面積あたりの利用者数			=利用者数/延床面積										
	コスト状況	延床面積あたりコスト			=年間総コスト/延床面積										
		利用者あたりコスト			=年間総コスト/利用者数										
リーダーチャート	※コスト状況はスポーツ施設単位で算出		ポर्टフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ハード面の見直し</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>230</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>231</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>232</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>233</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>		施設ID	評価値	230	47	231	42	232	47	233	28
	施設ID	評価値													
230	47														
231	42														
232	47														
233	28														

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	施設の管理人が常駐している。住居設備が必要であることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

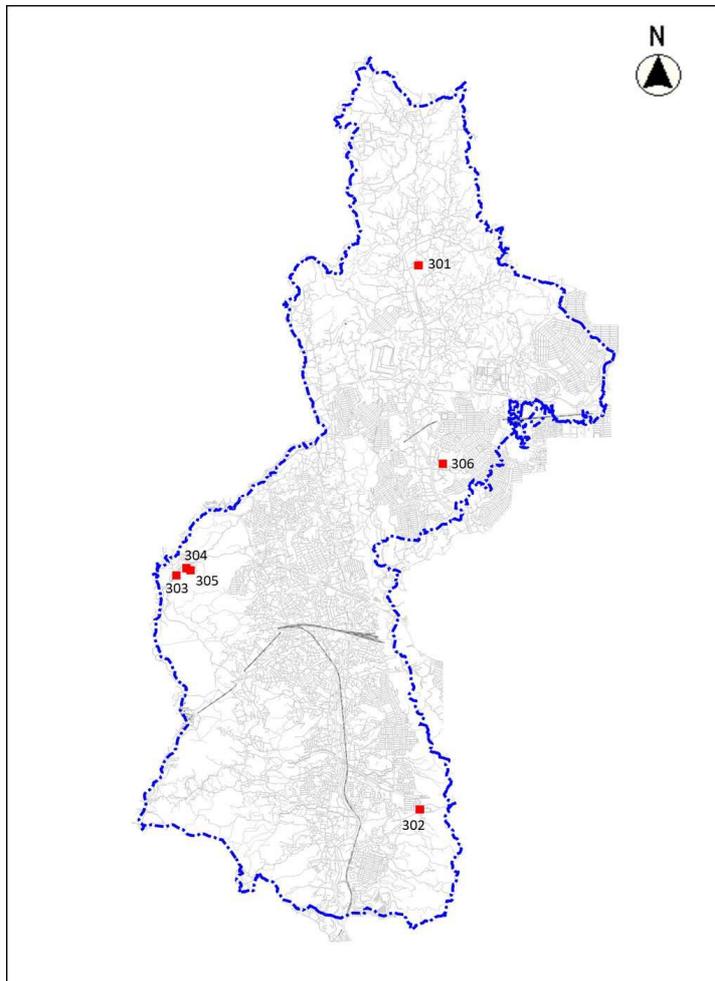
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	管理人用宿舎としての用途を廃止する。ただし、指定管理者の管理人が常駐している間は維持する。		

レクリエーション・観光施設

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			一部可能※
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

※ 生駒山麓公園のみ可能

施設の配置



ID	施設名
301	高山竹林園
302	歓喜の湯足湯
303	生駒山麓公園野外活動センター
304	生駒山麓公園ふれあいセンター
305	生駒山麓公園フィールドアスレチック
306	花のまちづくりセンター

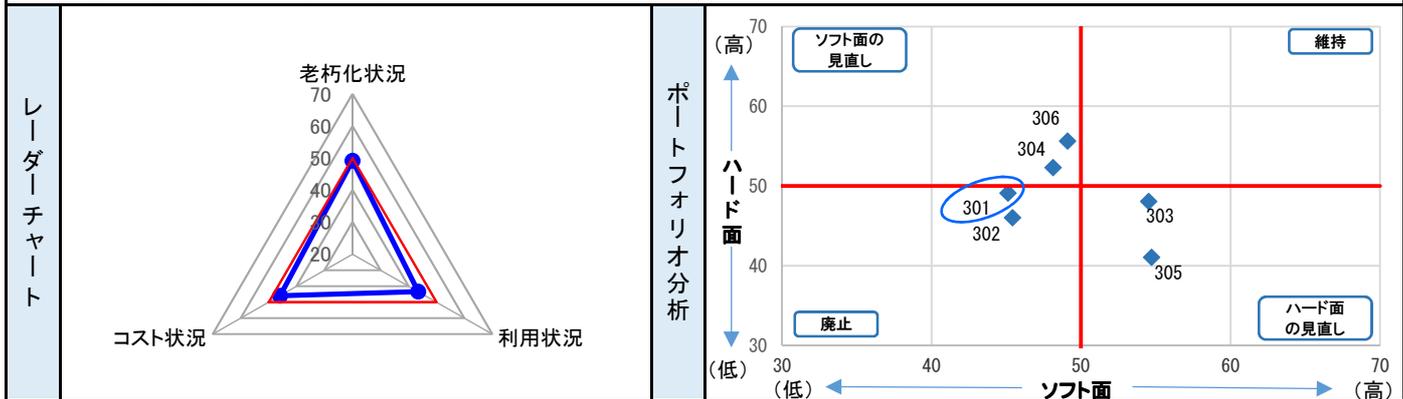
施設分類全体の方針

レクリエーション・観光施設については、行政が維持すべき施設であるか検討を行ったうえで、維持すべき施設については、民間等の活力を積極的に導入し、施設の活性化を図ります。

ID	301	施設名	高山竹林園
施設分類	レクリエーション・観光施設		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.9	49.1	=経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	38.0		
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	43.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数※	43.5		
	コスト状況	延床面積あたりコスト※	56.2	45.9	=年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	35.6		

※ID304生駒山麓公園ふれあいセンターを除くレクリエーション・観光施設の面積は、建物の延床面積ではなく、敷地面積で算出



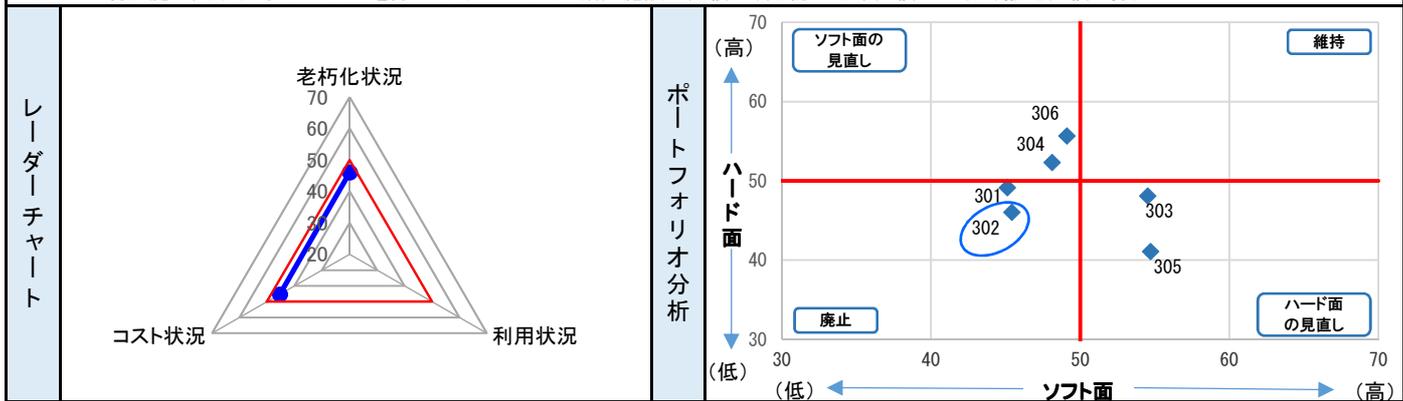
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	地場産業である竹製品の振興を目的として建設された施設であり、利用圏域内にはほかに同じ用途を持つ施設がなく、また、茶釜をはじめ様々な竹製品を製造している高山町にあることに意味があることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、利用者の増加を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	2017年度の指定管理開始以降、市内外からの来園者数は増加しており(2017年度から2018年度で17%増)、今後も引き続き増加する見込みである。	補足④	応急仮設住宅建設候補地となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	本市の特産品である竹製品を振興するための施設であることから用途を維持する。ただし、ソフト面が低評価であることから、利用者の増加を図るなどの見直しを行う。		

ID	302	施設名	歓喜乃湯足湯
施設分類	レクリエーション・観光施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.5	46.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	-	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数※	-		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト※	45.4	45.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	-		=年間総コスト/利用者数

※ID304生駒山麓公園ふれあいセンターを除くレクリエーション・観光施設の面積は、建物の延床面積ではなく、敷地面積で算出



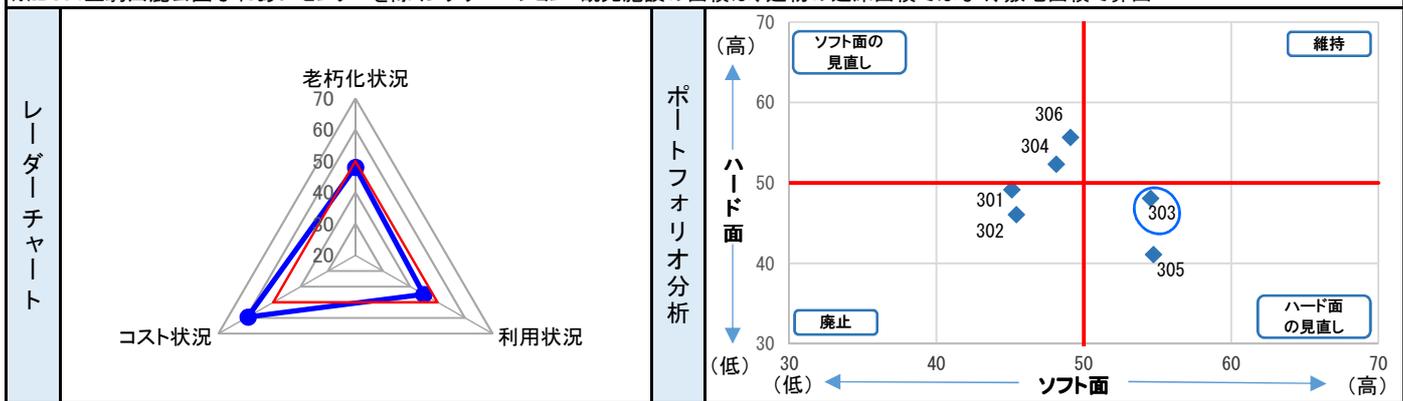
2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か	評価①	不可能
補足①	源泉を汲み上げて運営している足湯機能は他になく、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。なお、近隣の社会福祉法人等に源泉を販売している。	補足②	コスト削減や収入確保につながる民間活用は不可能である。	評価②	不可能
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か	評価③	横ばい
補足③	ハイキングコースに隣接し、観光雑誌等にも掲載され、市外からの利用者も多いことから、利用者数は大きく変化しない見込みである。	補足④	—	評価④	指定されていない
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか	評価⑤	該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—	評価⑥	いずれにも該当しない

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していること、維持管理費が多額であることから、足湯施設を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	足湯としての用途を廃止する。なお、源泉の販売については、ポンプの改修に多額の費用がかかることから、源泉の汲み上げポンプが修理不能となった時点で廃止する。		

ID	303	施設名	生駒山麓公園野外活動センター
施設分類	レクリエーション・観光施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	50.0	48.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	40.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	44.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数※	44.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト※	57.2	59.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	61.5		=年間総コスト/利用者数

※ID304生駒山麓公園ふれあいセンターを除くレクリエーション・観光施設の面積は、建物の延床面積ではなく、敷地面積で算出



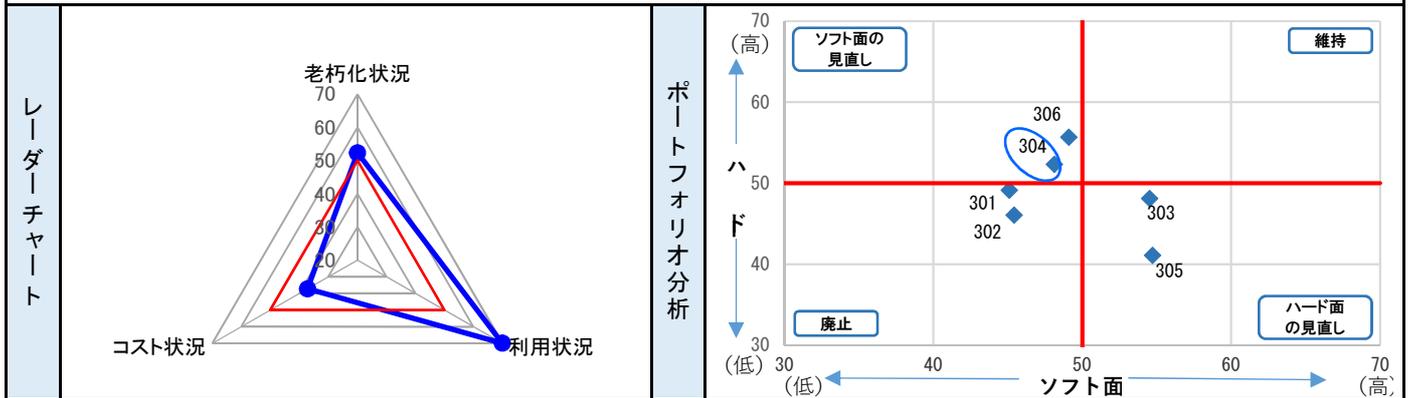
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに野外活動センターの用途を持つ施設がないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者の自主事業により運営されており、運営に要する経費は不要となっている。なお、生駒山麓公園内の施設であるため、次期指定管理開始までに生駒山麓公園全体の今後のあり方について検討する必要がある。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	横ばい	評価④	指定されていない
補足③	利用者数は過去5年55,000人/年前後で推移しており、市外からの利用者も多いため、利用者数は大きく変化しない見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。ただし、大規模な施設改修については、生駒山麓公園全体の今後のあり方の検討を踏まえて実施を検討する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	現指定管理期間内(2024年6月まで)は現状を維持し、利用者の拡大を図るが、次期指定管理開始までに生駒山麓公園全体の今後のあり方について検討を行う。		

ID	304	施設名	生駒山麓公園ふれあいセンター
施設分類	レクリエーション・観光施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	54.4	52.3 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	44.2	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	69.9 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数※	69.9	
	コスト状況	延床面積あたりコスト※	29.6	37.2 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	44.9	

※ID304生駒山麓公園ふれあいセンターを除くレクリエーション・観光施設の面積は、建物の延床面積ではなく、敷地面積で算出



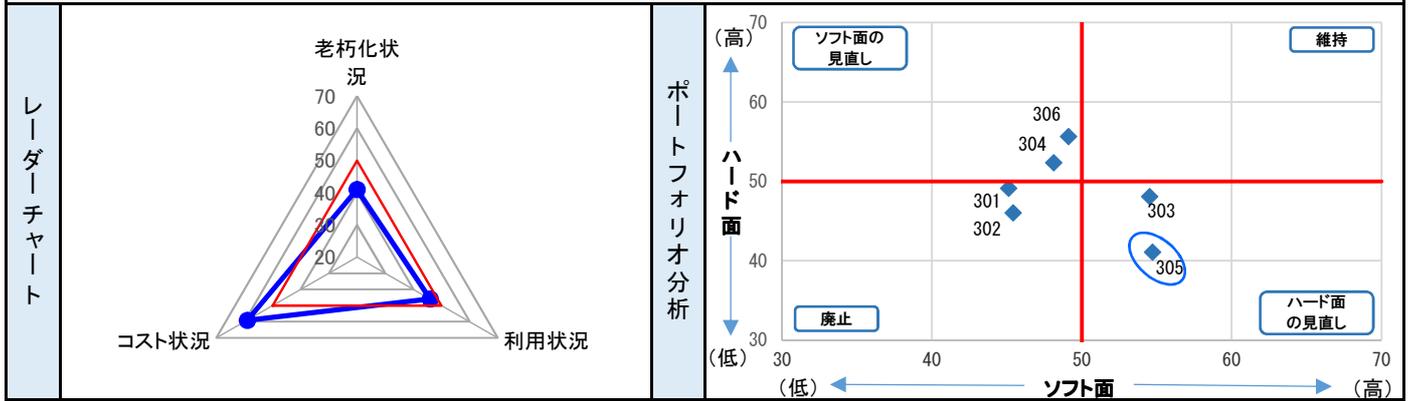
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに会議室や宿泊施設、浴場を一体で持つ施設はないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者制度を導入しており、導入前と比較し、支出の削減となっている。なお、設備等が老朽化しているため、次期指定管理開始までに生駒山麓公園全体の今後のあり方について検討する必要がある。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	横ばい	評価④	指定されていない
補足③	利用者は過去5年100,000人/年前後で推移しており、市外からの利用者も多いため、利用者は大きく変化しない見込みである。	補足④	自衛隊及び緊急消防援助隊等の受入拠点(連絡事務所、宿舎、車両・重機材駐車場等)となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	現指定管理期間内(2024年6月まで)は現状を維持し、利用者の拡大を図るが、次期指定管理開始までに生駒山麓公園全体の今後のあり方について検討を行う。		

ID	305	施設名	生駒山麓公園フィールドアスレチック
施設分類	レクリエーション・観光施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.4	41.1 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	36.0	
ハード面	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	45.9 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数※	45.9	
ソフト面	コスト状況	延床面積あたりコスト※	57.1	59.1 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	61.1	

※ID304生駒山麓公園ふれあいセンターを除くレクリエーション・観光施設の面積は、建物の延床面積ではなく、敷地面積で算出



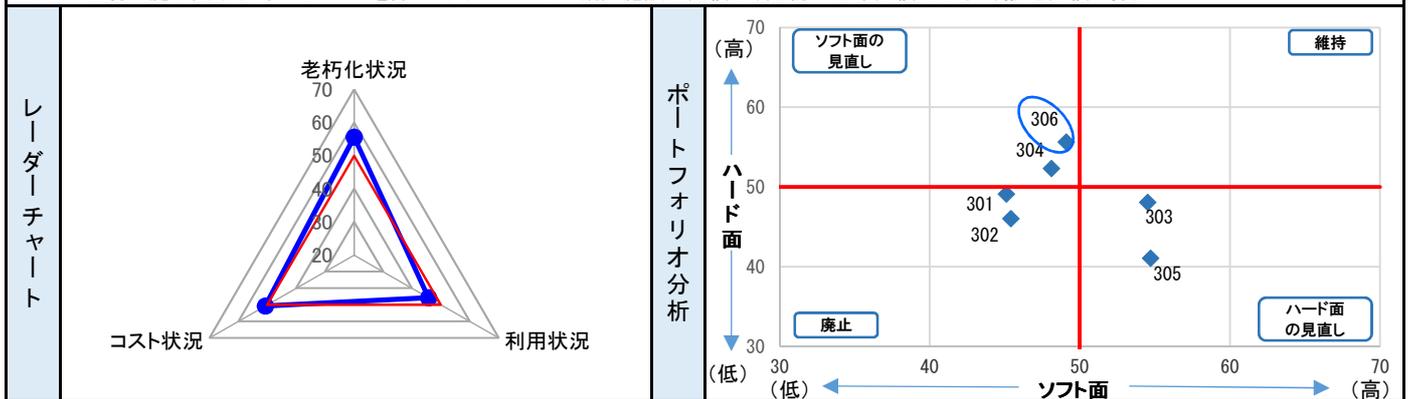
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかにフィールドアスレチックの用途を持つ施設がないため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者の自主事業により運営されており、運営に要する経費は不要となっている。なお、生駒山麓公園内の施設であるため、次期指定管理開始までに生駒山麓公園全体の今後のあり方について検討する必要がある。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	横ばい	評価④	指定されていない
補足③	利用者数は過去5年70,000人/年前後で推移しており、市外からの利用者も多いため、利用者数は大きく変化しない見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。ただし、大規模な施設改修については、生駒山麓公園全体の今後のあり方の検討を踏まえて実施を検討する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	現指定管理期間内(2024年6月まで)は現状を維持し、利用者の拡大を図るが、次期指定管理開始までに生駒山麓公園全体のあり方について検討を行う。		

ID	306	施設名	花のまちづくりセンター
施設分類	レクリエーション・観光施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	57.2	55.7 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	49.7	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	45.8 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数※	45.8	
	コスト状況	延床面積あたりコスト※	54.6	50.7 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	46.9	

※ID304生駒山麓公園ふれあいセンターを除くレクリエーション・観光施設の面積は、建物の延床面積ではなく、敷地面積で算出



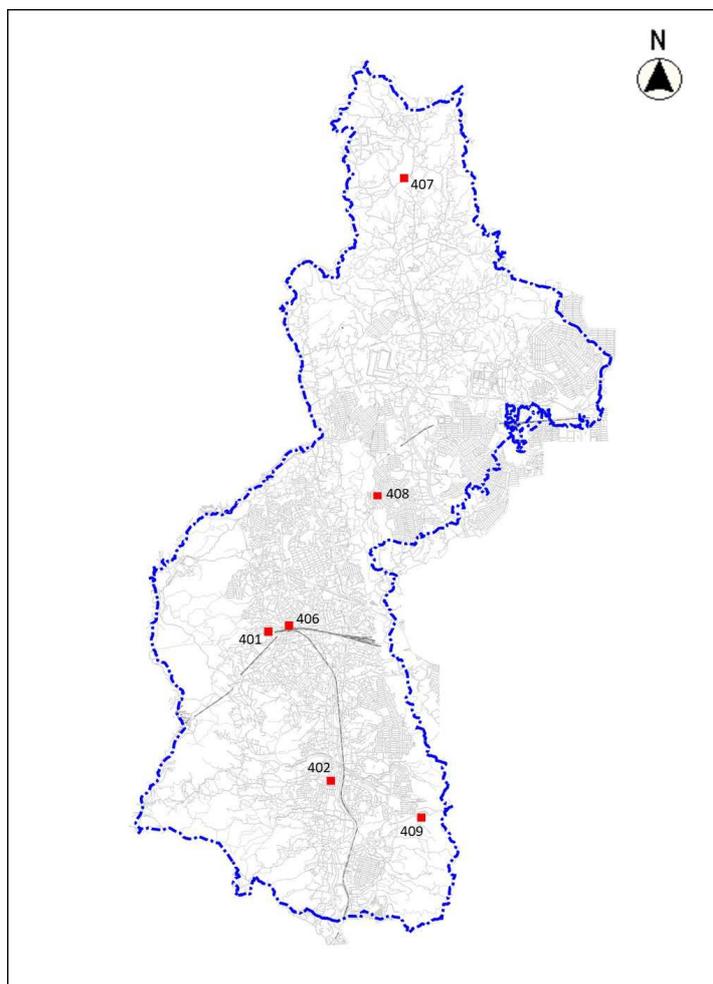
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	緑化推進に適した、他の公園等の施設を利用することができる。	補足②	指定管理者制度の導入やNPO・ボランティア団体による運営など、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	NPOやボランティア団体による運営や指定管理者制度の導入など、市民との協働や民間活力の導入を検討し、緑化施策及び施設の活性化を図る。		

高齢福祉施設

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	+5.0%	+13.2%	+11.7%	-3.1%	

施設の配置



ID	施設名
401	デイサービスセンター幸楽
402	デイサービスセンター寿楽
406	RAKU-RAKUはうす
407	金鶏の杜優苑
408	あすか野介護予防拠点施設
409	介護老人保健施設やすらぎの杜優楽

施設分類全体の方針

2050年までは老年人口が増加すること、「生駒市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画」において要支援・要介護認定者数は老年人口の伸び率以上に増加すると見込まれていることから、高齢者の集いの場や適切なサービスが受けられる施設を確保する必要があります。ただし、民間事業者によるサービスが普及していることから、民間事業者による代替が可能な施設は民間へ移管します。

ID	401	施設名	デイサービスセンター幸楽
施設分類	高齢福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	59.4	58.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	55.9		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	40.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	40.5		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	54.6	53.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	52.5		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	<p>デイサービス事業については、高齢者人口が増加し民間の参入も多いことから、他のデイサービスセンターを利用することができる。介護予防等の事業についても他施設を利用することができる。ただし、デイサービスと先駆的な介護予防を一体的に実施してきたノウハウがあることから、それぞれの用途を別々に移すことはできない。</p>	補足②	<p>指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。なお、指定管理者制度を導入していない介護予防等の事業を含めた、全体的な民間活用については、補足①の点に注意すれば、民間等の活用は可能である。</p>
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	<p>利用圏域内の老年人口は、30年後までは増加するが、以降40年後に3.1%減少する見込みである。また、要支援・要介護認定者数は、老年人口の伸び率以上に増加することが見込まれている。</p>	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	<p>土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。</p>	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<p>本施設は、介護予防・生活支援サービス事業における委託事業である通所サービスC(パワーアッププラス)や指定事業である緩和型Aなどの本市独自の基準でのサービス事業を展開しているため、高齢福祉施設としての用途を維持するが、デイサービス事業での利用状況が悪いことから改善が必要である。</p>		

ID	402	施設名	デイサービスセンター寿楽
施設分類	高齢福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.4	47.2	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	46.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
耐震性能			0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	50.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	50.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.1	56.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

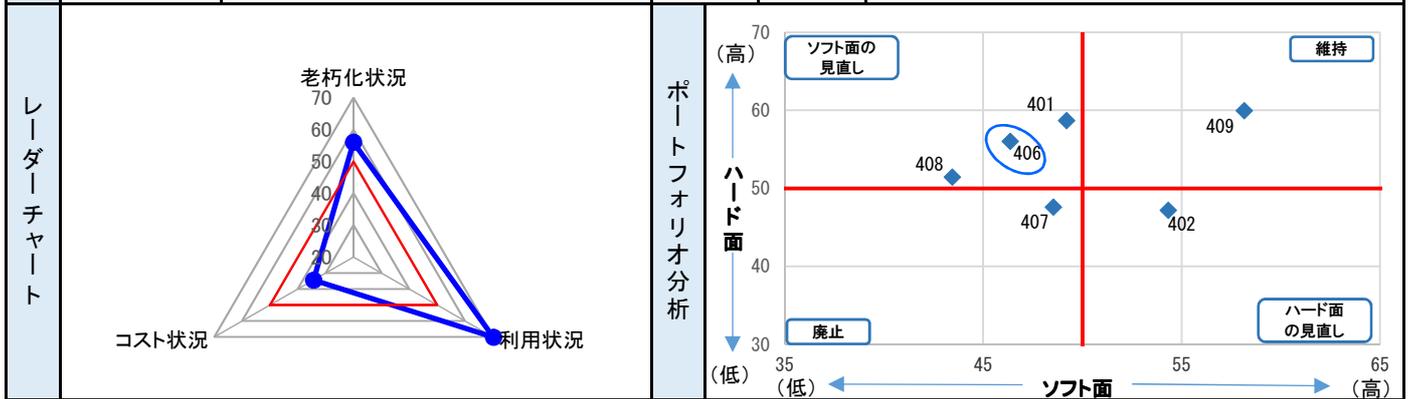
2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か		指標②	地元や民間等を活用することは可能か	
評価①	可能		評価②	指定管理者制度を導入している	
補足①	本施設はデイサービス事業のみを行っているが、デイサービス事業は民間の参入も多いことから、他のデイサービスセンターを利用することができる。		補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。維持管理面において、民間活用を検討することができる。	
指標③	将来の利用見込みはどうか		指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か	
評価③	増加		評価④	指定されていない	
補足③	利用圏域内の老年人口は、30年後までは増加するが、以降40年後に3.1%減少する見込みである。また、要支援・要介護認定者数は、老年人口の伸び率以上に増加することが見込まれている。		補足④	—	
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか		指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか	
評価⑤	該当しない		評価⑥	いずれにも該当しない	
補足⑤	—		補足⑥	—	

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物の民間事業者への売却等を検討する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	引き続き民間事業者の運営を継続する。		

ID	406	施設名	RAKU-RAKUはうす
施設分類	高齢福祉施設		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	57.2	56.0 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	51.6	
耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	70.3 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	70.3	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	31.0	34.4 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	37.9	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに会議室(交流スペース)の用途を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	生駒駅に隣接する商業ビルの屋上にあり利便性が高いことから、より効果的に活用することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の老年人口は、30年後までは増加するが、以降40年後に3.1%減少する見込みである。また、要支援・要介護認定者数は、老年人口の伸び率以上に増加が見込まれている。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

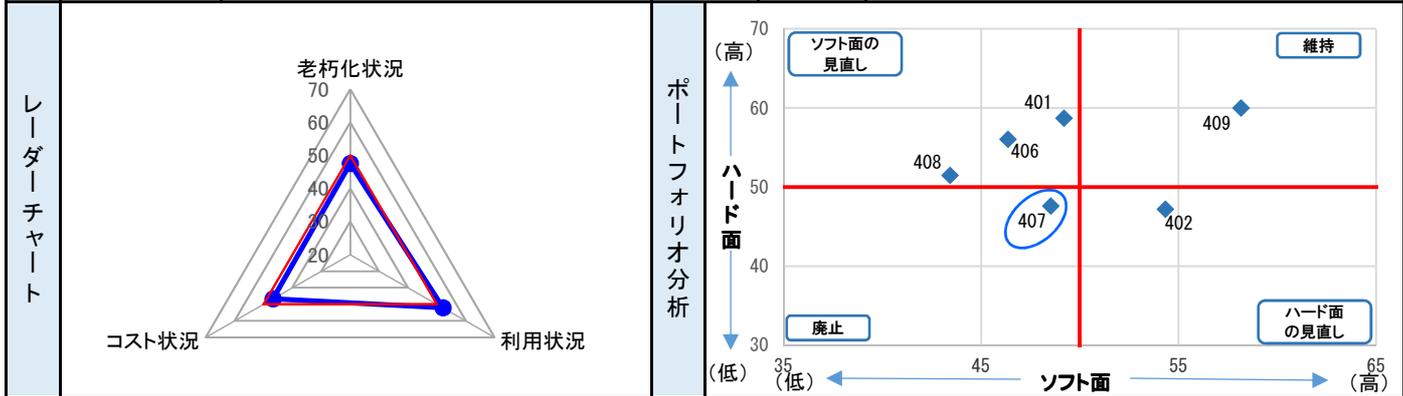
1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	本施設は、生駒駅に連絡する利便性の高い場所にあることから、さらに効果的な活用を検討する。なお、高齢者人口は今後も増加することを踏まえ、高齢者の集会機能は、本施設の代わりに既存の他施設を利用することを検討する。		

ID	407	施設名	金鶏の杜倭苑
施設分類	高齢福祉施設		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	44.6	47.6 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	59.8	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	52.2 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	52.2	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	47.6	46.7 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	45.9	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに会議室(交流スペース)の用途を持つ施設があるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。浴場については、生駒山麓公園ふれあいセンターを利用することができる。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、今以上のコスト削減や収入確保につながる民間活力の活用は不可能である。なお、土地及び建物は奈良県の所有である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の老年人口は、30年後までは増加するが、以降40年後に3.1%減少する見込みである。また、要支援・要介護認定者数は、老年人口の伸び率以上に増加することが見込まれている。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を奈良県へ返却する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	老朽化が進み、コスト状況も悪いことから、本施設の高齢福祉施設としての用途は廃止するが、高齢者の増加を踏まえ、本施設の代わりに既存の他施設を利用することを検討する。		

ID	408	施設名	あすか野介護予防拠点施設
施設分類	高齢福祉施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	50.6	51.5 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	54.9	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	42.1 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	42.1	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	47.8	44.1 =年間総コスト/延床面積
利用者あたりコスト		40.3	=年間総コスト/利用者数	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	一部民間等に委託している
補足①	利用圏域内に、市の介護予防の拠点及び地域包括支援センターを運営するための必要なスペースを他施設で確保できれば、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	地域包括支援センターの運営については、生駒メディカルセンターに委託し、訪問看護ステーション業務については、生駒メディカルセンターの自主事業として実施している。市の介護予防の拠点としての用途は、民間委託が可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の老年人口は、30年後までは増加するが、以降40年後に3.1%減少する見込みである。また、要支援・要介護認定者数は、老年人口の伸び率以上に増加することが見込まれている。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	高齢者福祉の拠点として今後さらに重要な役割を担う施設であるため、市の介護予防の拠点及び地域包括支援センターの用途をともに維持するが、建物が軽量鉄骨造の建物であり、耐用年数も短いことから、同じ生活圏域内の既存の他施設を利用することを検討する。		

ID	409	施設名	介護老人保健施設やすらぎの杜優楽
施設分類	高齢福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	60.4	60.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	58.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	44.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	44.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	63.0	65.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	67.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

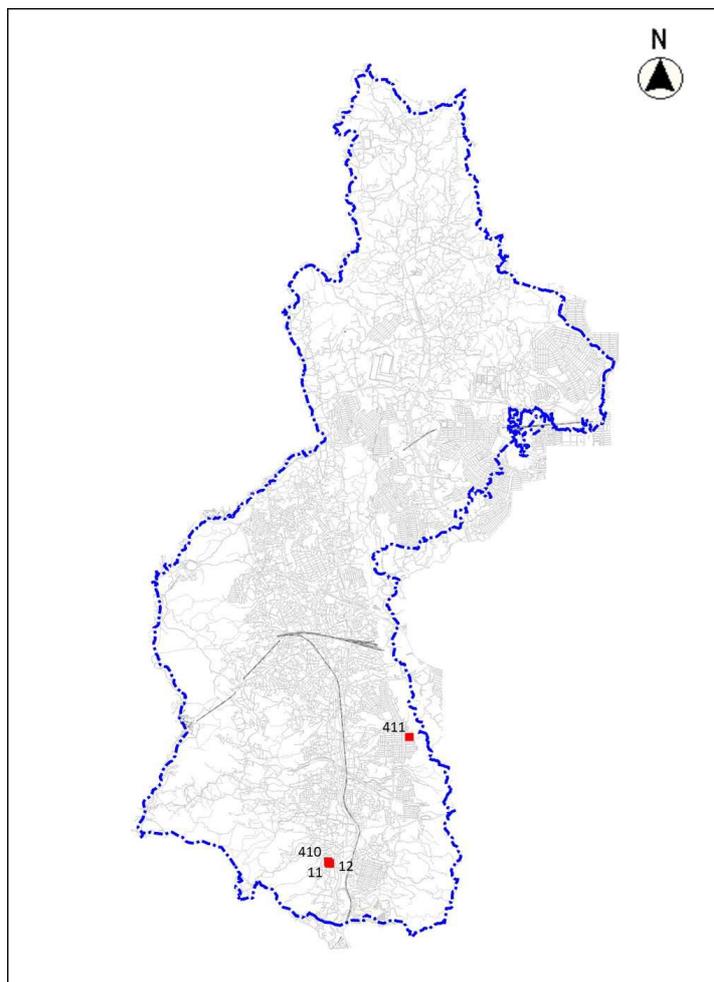
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	療養室や機能訓練室など構造上特殊な用途を持つ施設であるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。また、施設の減価償却費の一部として、毎年度50,000千円が指定管理者から納付されている。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	福祉避難所に指定されている
補足③	利用圏域内の老年人口は、30年後までは増加するが、以降40年後に3.1%減少する見込みである。また、要支援・要介護認定者数は、老年人口の伸び率以上に増加することが見込まれている。	補足④	災害時にも安全な区域で、他に福祉避難所としての用途がまかなえる施設があれば移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

その他福祉施設

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			不可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

施設の配置



ID	施設名
11	人権文化センター
12	人権文化センター別館
410	小平尾南児童館
411	福祉センター

施設分類全体の方針

人権、福祉に関する取組は重要であり、建物が老朽化している施設については、更新等や他施設への移転を検討します。

ID	11	施設名	人権文化センター
施設分類	その他福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	43.1	43.6	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	45.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	56.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	56.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.9	60.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	60.8		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内に調理室、会議室を有する他施設を確保できれば、本施設の代わりに既存の他施設へ移転することができる。	補足②	維持管理面において、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、現時点では老人憩の家をセンター別館にしたことで、利用の拡大につながっている。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	利用状況が良いことから、必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	人権に関する取組は重要であり、コミュニティ形成の場にもなっている。		

ID	12	施設名	人権文化センター別館
施設分類	その他福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.7	43.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	46.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	50.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	50.0		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	33.5	36.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	40.0		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か		
評価①	可能	評価②	可能		
補足①	利用圏域内に会議室を有する他施設を確保できれば、本施設の代わりに既存の他施設へ移転することができる。	補足②	維持管理面において、民間活用を検討することができる。		
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か		
評価③	減少	評価④	指定されていない		
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、現時点では老人憩の家をセンター別館にしたことで、利用の拡大につながっている。	補足④	—		
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか		
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない		
補足⑤	—	補足⑥	—		

1次評価+2次評価のまとめ					
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	老朽化が進んでいるため、建物を廃止する。				
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転	<input type="checkbox"/> 廃止	
補足	人権に関する取組は重要であり、コミュニティ形成の場にもなっていることから、人権文化センターと併せた活用ができるよう検討する。				

ID	410	施設名	小平尾南児童館
施設分類	その他福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.0	44.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	38.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	33.8	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	33.8		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	51.4	45.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	40.1		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内に未就学児から高校生までの子どもが安全に集える用途を持つ他施設を確保できれば、本施設の代わりに既存の他施設へ移転することができる。	補足②	維持管理面において、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の0～17歳人口は、10年後に12.9%、40年後に13.1%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進んでいるため、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	子育て中の親子が交流できる場の提供が必要であり、人権文化センターと併せた活用ができるよう検討する。		

ID	411	施設名	福祉センター
施設分類	その他福祉施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.7	52.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	60.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	60.0		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	55.2	57.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	59.2		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

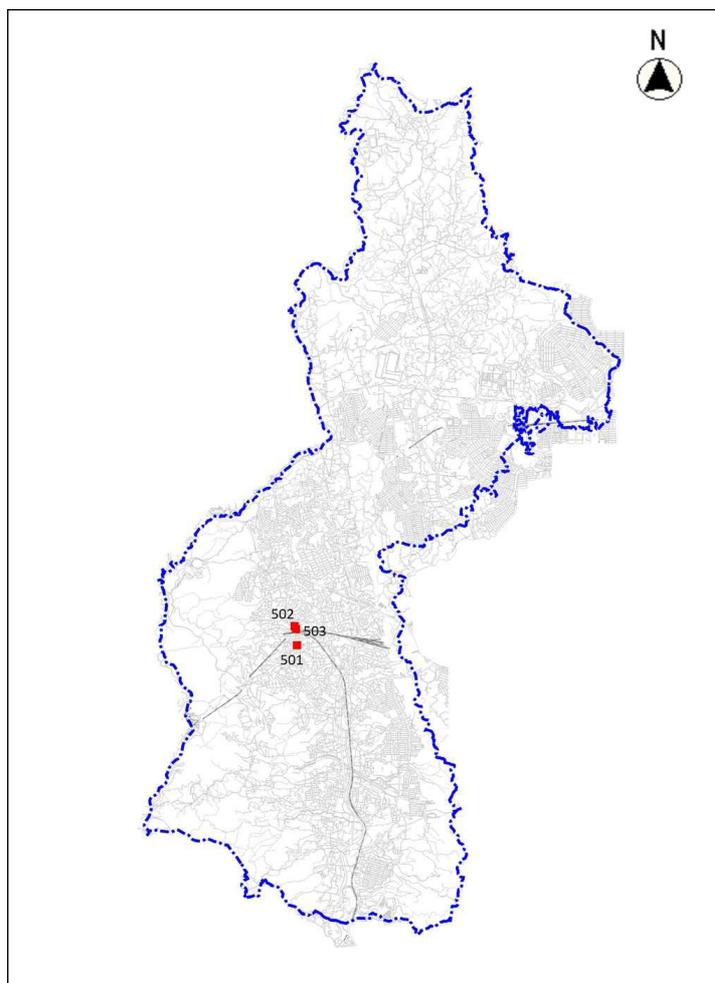
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	障がい者が利用しやすいよう整備された施設であることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	福祉避難所に指定されている
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、障がい者総数は、高齢化の進行やストレス社会の広がり等により、身体・精神障がいを中心として増加する見込みである。(約2%(約100人)増/年)	補足④	災害時にも安全な区域で、他に福祉避難所としての用途がまかなえる施設があれば移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域、急傾斜地の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。また、急傾斜地崩壊対策等の土砂災害対策を講じるよう奈良県へ要望している。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

自動車駐車場

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			不可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

施設の配置



ID	施設名
501	生駒駅南自動車駐車場
502	ベルテラスいこま自動車駐車場
503	生駒駅北地下自動車駐車場

施設分類全体の方針

路上駐車及びそれに伴う交通事故の防止という面から必要な施設であるため、現状を維持します。

ID	501	施設名	生駒駅南自動車駐車場
施設分類	自動車駐車場		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	52.6	50.0 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	39.4	
耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	36.4 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	36.4	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	36.6	47.3 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	58.0	
レーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏内にはほかに自動車駐車場の用途を持つ他施設があるが、他施設に受け入れる余裕がなく、また、生駒駅南地域で唯一の駐車場であることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	現状を維持するが、より一層の利用者数の増加を図るため、本施設の周知・利便性の向上に努め、利用促進を検討する。		

ID	502	施設名	ベルテラスいこま自動車駐車場
施設分類	自動車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	66.2	65.9	= 経過年数 / 法定耐用年数
		資産老朽化比率	64.8		= 減価償却累計額 / (取得価額 + 過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ -10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	60.2	= 年間利用コマ数 / 年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	60.2		= 利用者数 / 延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.9	44.4	= 年間総コスト / 延床面積
		利用者あたりコスト	35.9		= 年間総コスト / 利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	利用圏域内にはほかに自動車駐車場の用途を持つ他施設があるが、他施設に受け入れる余裕がないことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理者制度を導入しているが、コスト状況の改善を図るなどの見直しが必要である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	ソフト面の改善を検討する。		

ID	503	施設名	生駒駅北地下自動車駐車場
施設分類	自動車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	54.1	52.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.7		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	53.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	53.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	60.5	58.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.1		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

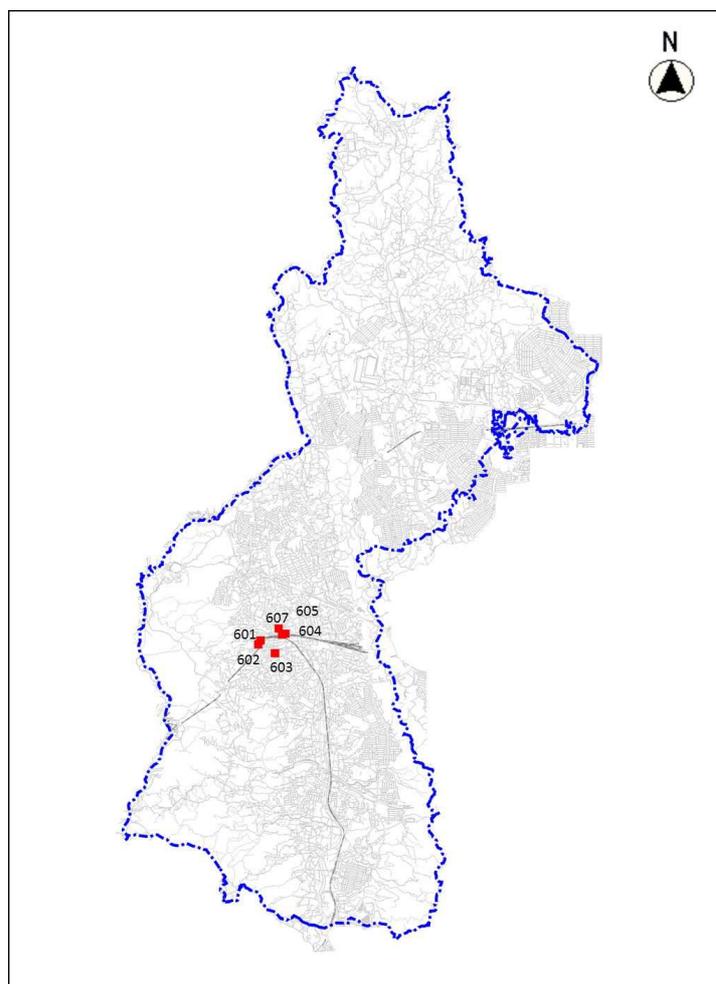
2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か		
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している		
補足①	利用圏域内にはほかに自動車駐車場の用途を持つ他施設があるが、他施設に受け入れる余裕がないことから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	—		
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か		
評価③	減少	評価④	指定されていない		
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—		
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか		
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない		
補足⑤	—	補足⑥	—		

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

自転車駐車場

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			不可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

施設の配置



ID	施設名
601	生駒駅前第1自転車駐車場
602	生駒駅前第2自転車駐車場
603	生駒駅南自転車駐車場
604	生駒駅北自転車駐車場
605	生駒駅前第4自転車駐車場 (谷田自転車駐車場)
607	谷田第2自転車駐車場

施設分類全体の方針

放置自転車等及びそれに伴う交通事故の防止という面から必要な施設ですが、今後人口減少・少子高齢化の進行に伴い利用者数の減少が見込まれるため、利用状況やコスト状況が低評価な施設については見直しを検討します。

ID	601	施設名	生駒駅前第1自転車駐車場
施設分類	自転車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	38.2	37.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	34.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
耐震性能			0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	44.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	44.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.0	56.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	近隣に5つの市営自転車駐車場があり、利用状況からも本施設の代わりに既存の他施設を利用することはできる。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	より一層の利用者数の向上に努める。ただし、今後の利用状況によっては、自転車駐車場としての用途の廃止を検討する。		

ID	602	施設名	生駒駅前第2自転車駐車場
施設分類	自転車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	39.2	38.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	36.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	46.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	46.0		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	55.3	55.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.7		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

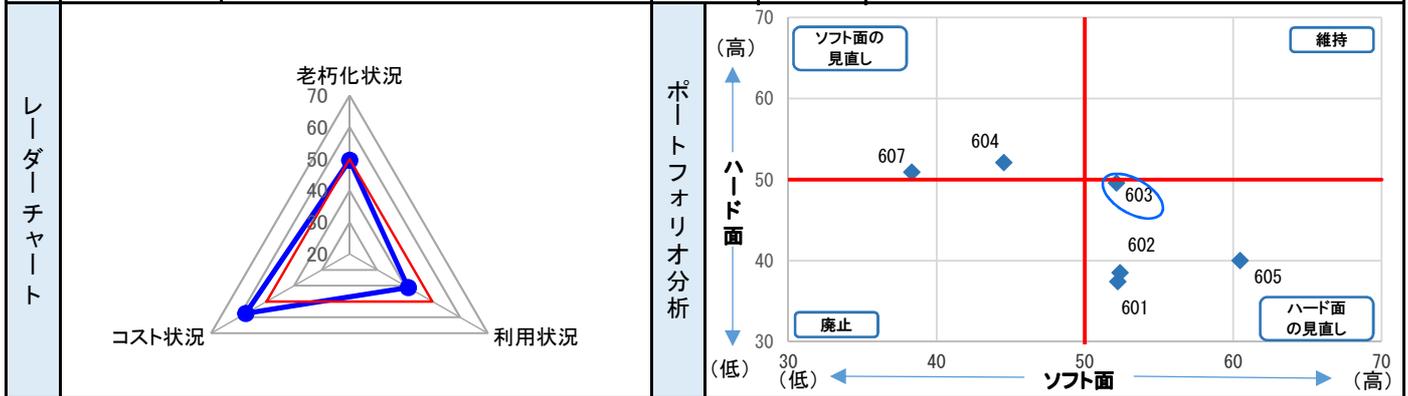
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	近隣に5つの市営自転車駐車場があり、利用状況からも本施設の代わりに既存の他施設を利用することはできる。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	より一層の利用者数の向上に努める。ただし、今後の利用状況によっては、自転車駐車場としての用途の廃止を検討する。		

ID	603	施設名	生駒駅南自転車駐車場
施設分類	自転車駐車場		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.1	49.6 = 経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	43.8	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	= 年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	41.2	= 利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.7	= 年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	58.5	= 年間総コスト/利用者数



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	近隣に5つの市営自転車駐車場があり、利用状況からも本施設の代わりに既存の他施設を利用することはできる。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	より一層の利用者数の向上に努める。ただし、今後の利用状況によっては、自転車駐車場としての用途の廃止を検討する。		

ID	604	施設名	生駒駅北自転車駐車場
施設分類	自転車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.4	52.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-		44.2
		延床面積あたりの利用者数	44.2	=利用者数/延床面積	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.4	44.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	39.0		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	運営管理を民間に委託している
補足①	近隣に5つの市営自転車駐車場があり、利用状況からも本施設の代わりに既存の他施設を利用することはできる。	補足②	施設の運営管理を民間に委託しており、将来的には指定管理者制度の導入を予定している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	放置自転車等及びそれに伴う交通事故の防止から必要な施設であり、利用者数の向上を図るため民間活用を進める。ただし、今後の利用状況によっては、自転車駐車場としての用途の廃止を検討する。		

ID	605	施設名	生駒駅前第4自転車駐車場(谷田自転車駐車場)
施設分類	自転車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	41.3	40.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	34.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	70.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	70.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.5	55.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	57.3		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	運営管理を民間に委託している
補足①	近隣に5つの市営自転車駐車場があり、利用状況からも本施設の代わりに既存の他施設を利用することはできる。	補足②	施設の運営管理を民間に委託しており、将来的には指定管理者制度の導入を予定している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切な維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	放置自転車等及びそれに伴う交通事故の防止から必要な施設であり、利用者数の向上を図るため民間活用を進める。ただし、今後の利用状況によっては、自転車駐車場としての用途の廃止を検討する。		

ID	607	施設名	谷田第2自転車駐車場
施設分類	自転車駐車場		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	52.2	50.9	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	45.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	53.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	53.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	28.1	30.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	33.2		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート					

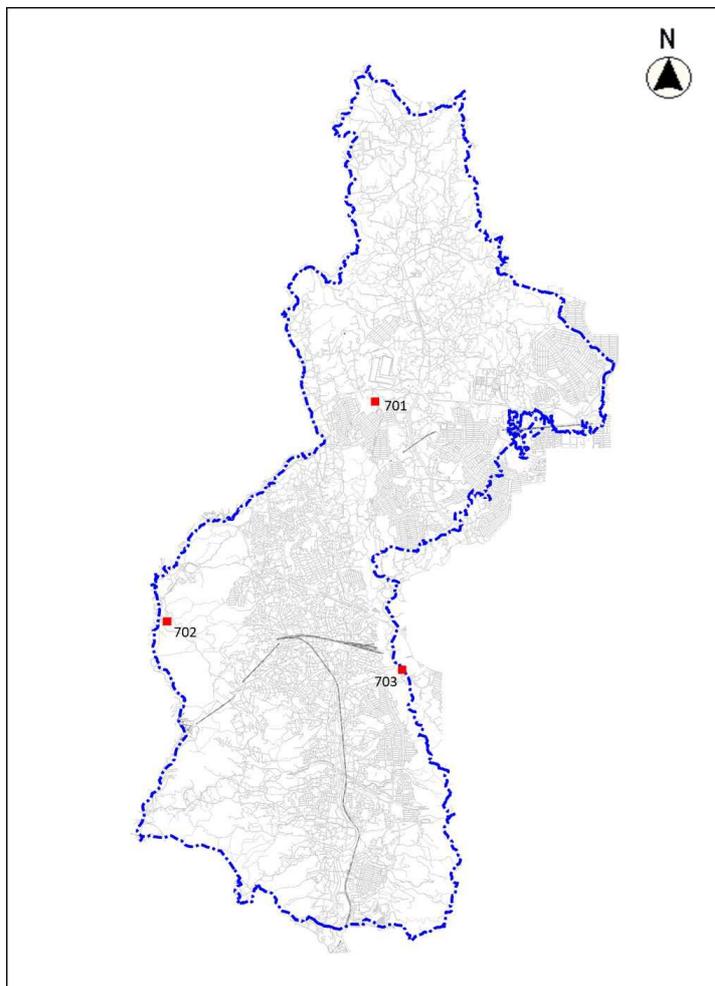
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	運営管理を民間に委託している
補足①	近隣に5つの市営自転車駐車場があり、利用状況からも本施設の代わりに既存の他施設を利用することはできる。	補足②	施設の運営管理を民間に委託しており、将来的には指定管理者制度の導入を予定している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	放置自転車等及びそれに伴う交通事故の防止から必要な施設であり、利用者数の向上を図るため民間活用を進める。ただし、今後の利用状況によっては、自転車駐車場としての用途の廃止を検討する。		

供給処理施設

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

施設の配置



ID	施設名
701	エコパーク21
702	清掃センター
703	清掃リレーセンター

施設分類全体の方針

市民生活に直結する機能を持つ施設であるため、今後も維持します。
 なお、他市町村との広域連携の可能性を検討します。

ID	701	施設名	エコパーク21
施設分類	供給処理施設		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	58.3	57.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	51.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	民間等に委託している
補足①	し尿等は負荷が高く下水処理施設では処理できないことから、本施設での処理が不可欠であるため、し尿処理機能を既存の他施設に移転することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行い、引き続き他の自治体からの受け入れを行う。運営委託の更新の際は、設備の見直し及び広域化について検討を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	処理方法について本計画期間内に検討を行う。		

ID	702	施設名	清掃センター
施設分類	供給処理施設		

1次評価													
評価項目			偏差値	評価値	備考								
ハード面	老朽化状況	老朽化率	49.5	47.6	=経過年数/法定耐用年数								
		資産老朽化比率	40.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)								
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10									
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数								
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積								
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積								
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数								
リーダーチャート			ポートフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ハード面の見直し</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>701</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>702</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>703</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>		施設ID	スコア	701	57	702	48	703	52
施設ID	スコア												
701	57												
702	48												
703	52												

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	民間等に委託している
補足①	廃棄物処理機能を既存の他施設に移転することは不可能である。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化に伴う修繕等を適切に実施するとともに、広域化の検討を行う。設備を更新する場合は、循環型社会形成推進地域計画の策定により、交付金を獲得し、基幹改良工事を実施する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	703	施設名	清掃リレーセンター
施設分類	供給処理施設		

1次評価													
評価項目			偏差値	評価値	備考								
ハード面	老朽化状況	老朽化率	54.7	52.0	=経過年数/法定耐用年数								
		資産老朽化比率	41.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)								
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10									
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数								
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積								
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積								
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数								
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポर्टフォリオ分析</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>701</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>702</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>703</td> <td>52</td> </tr> </tbody> </table>		施設ID	スコア	701	57	702	48	703	52
施設ID	スコア												
701	57												
702	48												
703	52												

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	清掃センターへの中継機能を既存の他施設に移転することは不可能である。	補足②	維持管理面において、民間活用を検討することができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

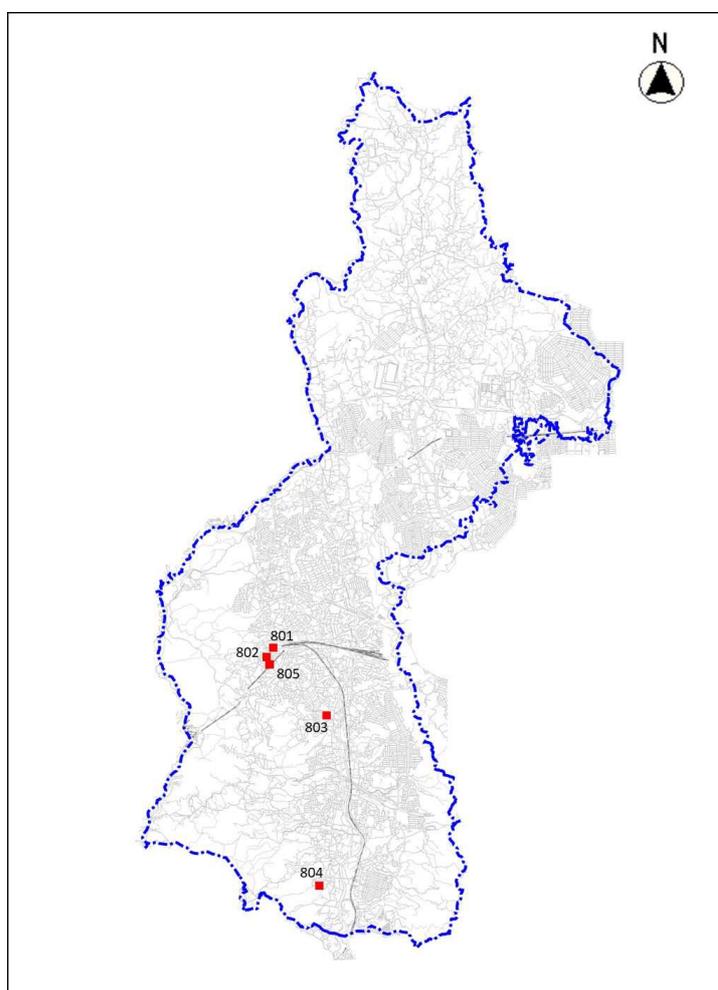
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

公営住宅

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積※	生駒市	0.05㎡/人	類団平均	全体	0.45㎡/人
				合併市	0.86㎡/人
				合併市を除く	0.30㎡/人
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

※(出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
801	元町住宅
802	第2元町住宅
803	緑ヶ丘住宅
804	小平尾桜ヶ丘住宅
805	再開発住宅

施設分類全体の方針

公営住宅は、住宅に困窮する低額所得者に対し、低廉な家賃で賃貸することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的に整備するものであることから、入居者の状況を見ながら他施設の活用を含め、施設の適正配置を検討します。

ID	801	施設名	元町住宅
施設分類	公営住宅		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.3	50.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	48.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<p>Bar chart showing scores for buildings 801, 802, 803, 804, and 805. The y-axis ranges from 30 to 60. A red horizontal line is drawn at 50. Building 801 has a score of approximately 50.5, 802 is 32, 803 is 32, 804 is 45, and 805 is 55. Building 801 is circled in blue and labeled 'ハード面の見直し'.</p>	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内に他の公営住宅があるが、本施設は戸数が多く、かつほぼ満室の状態であるため、本施設の代わりに既存の他施設へ移転することは不可能である。	補足②	民間住宅を公営住宅として活用することはできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、過去10年間の入居率は横ばいであり、2018年度末時点の入居率は96%(25戸中24戸入居)である。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域(B・C・D・E棟)、急傾斜地の土砂災害特別警戒区域(C・D棟)、急傾斜地の土砂災害警戒区域(B・C・D棟)に該当するため、土砂災害警戒区域については危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要し、土砂災害特別警戒区域については急傾斜地崩壊対策や、新築又は増改築する場合は建築物の構造規制に適合させるなどのハード対策を要する。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行うが、C棟・D棟については急傾斜地の土砂災害特別警戒区域に位置することから、今後の方針について検討を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	802	施設名	第2元町住宅
施設分類	公営住宅		

1次評価																
評価項目		偏差値	評価値	備考												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	31.2	32.8 =経過年数/法定耐用年数												
		資産老朽化比率	39.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)											
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10												
ソフト面	利用状況	稼働率	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数												
		延床面積あたりの利用者数	—	=利用者数/延床面積												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積											
		利用者あたりコスト	—	—	=年間総コスト/利用者数											
リーダーチャート	<p>ポートフォリオ分析</p> <table border="1"> <caption>ハード面の見直し</caption> <thead> <tr> <th>建物番号</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>801</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>802</td> <td>32.8</td> </tr> <tr> <td>803</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>804</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>805</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table>				建物番号	評価値	801	50	802	32.8	803	32	804	45	805	55
建物番号	評価値															
801	50															
802	32.8															
803	32															
804	45															
805	55															

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	2027年に公営住宅法施行令で定める耐用年限に到達する。利用圏域内の他の公営住宅に空き部屋があればその空き部屋を利用し、不足する場合は本施設の代わりに民間住宅等を含めた既存の他施設へ移転することができる。	補足②	民間住宅を公営住宅として活用することはできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、過去10年間の入居率は横ばいであり、2018年度末時点の入居率は100%(2戸中2戸入居)である。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域、急傾斜地の土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域に該当するため、土砂災害警戒区域については危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要し、土砂災害特別警戒区域については急傾斜地崩壊対策や、新築又は増改築する場合は建築物の構造規制に適合させるなどのハード対策を要する。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物の構造がPCとLSの混構造で耐用年数が短く、2027年に公営住宅法施行令で定める耐用年限に到達すること、土砂災害特別警戒区域に該当していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	公営住宅法の定めに基づき、本市の住宅事情に留意し公営住宅の需要を把握して、利用圏域内の他の公営住宅に空き部屋があればその空き部屋を利用し、不足する場合は、本施設の代わりに民間住宅等を含めた既存の他施設への移転を検討する。		

ID	803	施設名	緑ヶ丘住宅
施設分類	公営住宅		

1次評価																	
評価項目			偏差値	評価値	備考												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	31.2	32.7	=経過年数/法定耐用年数												
		資産老朽化比率	38.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)												
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10													
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数												
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積												
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数												
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析</caption> <thead> <tr> <th>建物ID</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>801</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>802</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>803</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>804</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>805</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table>		建物ID	スコア	801	50	802	32	803	32	804	46	805	54
建物ID	スコア																
801	50																
802	32																
803	32																
804	46																
805	54																

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	2027年に公営住宅法施行令で定める耐用年限に到達する。利用圏内の他の公営住宅に空き部屋があればその空き部屋を利用し、不足する場合は本施設の代わりに民間住宅等を含めた既存の他施設へ移転することができる。	補足②	民間住宅を公営住宅として活用することはできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、過去10年間の入居率は横ばいであり、2018年度末時点の入居率は100%(10戸中10戸入居)である。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物の構造がPCとLSの混構造で耐用年数が短く、2027年に公営住宅法施行令で定める耐用年限に到達することから建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	公営住宅法の定めに基づき、本市の住宅事情に留意し公営住宅の需要を把握して、利用圏内の他の公営住宅に空き部屋があればその空き部屋を利用し、不足する場合は、本施設の代わりに民間住宅等を含めた既存の他施設への移転を検討する。		

ID	804	施設名	小平尾桜ヶ丘住宅
施設分類	公営住宅		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.8	45.9	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	42.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析	<p>60 50 40 30</p> <p>801 802 803 804 805</p>	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内に他の公営住宅があるが、本施設は戸数が多く、かつほぼ満室の状態であるため、本施設の代わりに既存の他施設へ移転することは不可能である。	補足②	民間住宅を公営住宅として活用することはできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、過去10年間の入居率は横ばいであり、2018年度末時点の入居率は100%(40戸中40戸入居)である。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	本施設は、公営住宅法施行令で定める耐用年限が70年であり、計画的に予防保全を図ることで、2050年まで維持することが可能であるため、今後も必要に応じ修繕等を実施し、適切な維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	805	施設名	再開発住宅
施設分類	公営住宅		

1次評価																
評価項目		偏差値	評価値	備考												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	55.4	54.5 =経過年数/法定耐用年数												
		資産老朽化比率	50.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)											
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10												
ソフト面	利用状況	稼働率	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数												
		延床面積あたりの利用者数	—	=利用者数/延床面積												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積											
		利用者あたりコスト	—	—	=年間総コスト/利用者数											
リーダーチャート	<p>ポートフォリオ分析</p> <table border="1"> <caption>ハード面の見直し</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>801</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>802</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>803</td> <td>33</td> </tr> <tr> <td>804</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>805</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table>				施設ID	スコア	801	50	802	33	803	33	804	46	805	54
施設ID	スコア															
801	50															
802	33															
803	33															
804	46															
805	54															

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内の他の公営住宅に空き部屋があればその空き部屋を利用し、不足する場合は民間住宅等を利用するのであれば、本施設の代わりに既存の他施設へ移転することができる。	補足②	民間住宅を公営住宅として活用することはできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、過去10年間の入居率は横ばいであり、2018年度末時点の入居率は100%(7戸中7戸入居)である。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	—

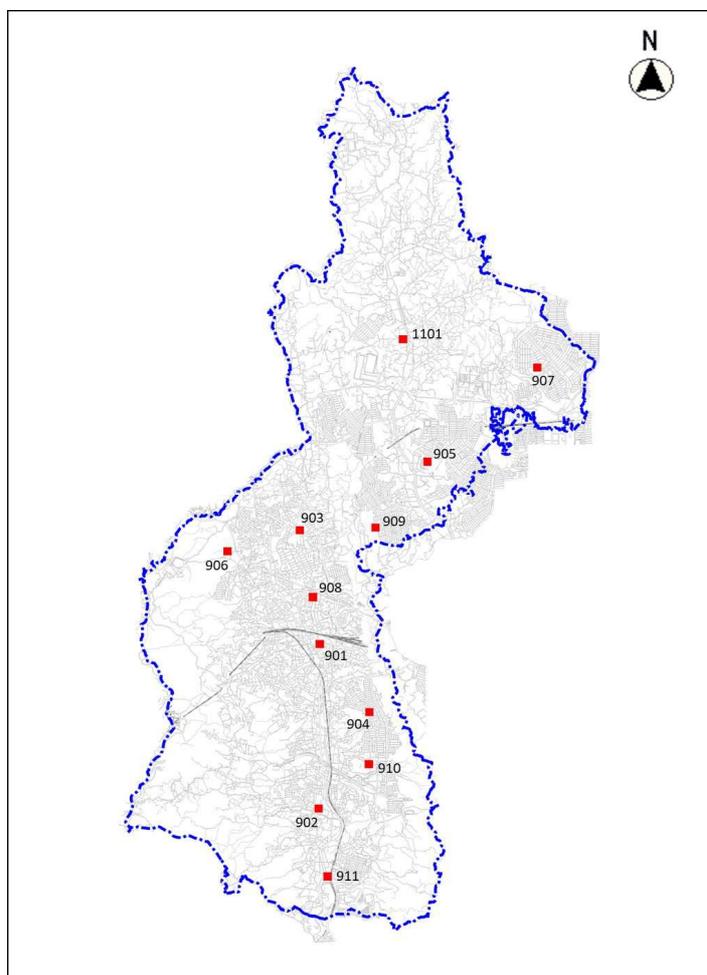
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

小学校

法的設置義務の有無	有	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			可能
民間による代替可能性	不可能	近隣自治体との連携可能性			不可能
人口1人あたりの延床面積※	生駒市	0.68㎡/人	類団平均	全体	0.77㎡/人
				合併市	0.90㎡/人
				合併市を除く	0.72㎡/人
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-14.7%	-14.2%	-12.3%	-12.0%	

※(出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
901	生駒小学校
902	生駒南小学校
903	生駒台小学校
904	生駒東小学校
905	真弓小学校
906	俵口小学校
907	鹿ノ台小学校
908	桜ヶ丘小学校
909	あすか野小学校
910	壱分小学校
911	生駒南第二小学校
1101	生駒北小中学校

施設分類全体の方針

検討にあたっては、『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』で定める方針を基本とします。学校プールについては、小中学校が隣接する場合はプールを1ヶ所に集約化し、他の小学校については、費用対効果を検証したうえで民間プールの活用を検討します。

ID	901	施設名	生駒小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	45.8	45.6	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
耐震性能			0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	44.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	44.5		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	57.0	53.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	50.7		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に2.5%、40年後に3.8%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	902	施設名	生駒南小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.8	42.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	42.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	45.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	45.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	41.7	43.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	44.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	学校の統廃合及び統廃合に伴う移転については、『今後の生駒市立小・中学校教育のあり方について』の方針に沿って検討する。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に12.1%、40年後に9.5%減少する見込みである。	補足④	同等以上の避難者の収容可能人数が確保されれば、南コミュニティセンター、南中学校の3施設で機能集約することが望ましい。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行しているため、更新を実施する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』で定める方針に沿って生駒南第二小学校と統合し、生駒南中学校との小中一貫教育の実施を検討する。		

ID	903	施設名	生駒台小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.5	48.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	49.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	55.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	55.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	58.0	58.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	59.7		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に31.2%、40年後に23.7%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	904	施設名	生駒東小学校
施設分類	小学校		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	43.8	43.6 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	43.0	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	53.4 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	53.4	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.5	53.1 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.8	
レーダーチャート			ポートフォリオ分析 	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に6.5%、40年後に4.8%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地区施設
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域(本館)に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	905	施設名	真弓小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.5	46.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	45.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	50.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	50.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	51.6	52.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	53.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に24.7%、40年後に20.2%減少する見込みである。	補足④	同等以上の避難者の収容可能人数が確保されれば、北コミュニティセンターと機能集約することが望ましい。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	906	施設名	俵口小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.0	46.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	46.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	45.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	45.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.5	51.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	49.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に0.6%、40年後に0.4%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	907	施設名	鹿ノ台小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.6	46.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	56.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	56.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	41.3	48.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.7		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

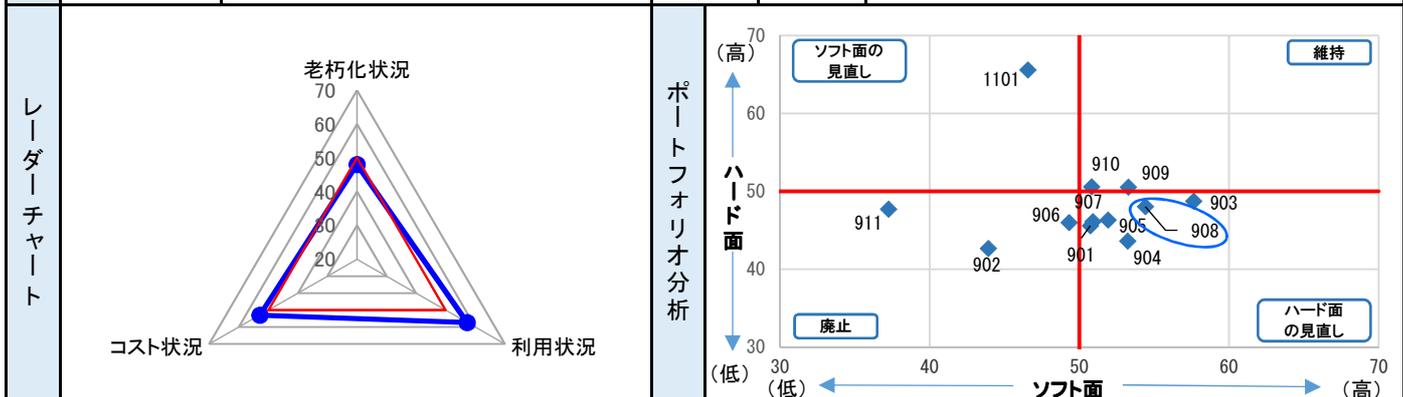
2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か		指標②	地元や民間等を活用することは可能か	
評価①	不可能		評価②	不可能	
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。		補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。	
指標③	将来の利用見込みはどうか		指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か	
評価③	減少		評価④	指定されている	
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に30.7%、40年後に23.9%減少する見込みである。		補足④	同等以上の避難者の収容可能人数が確保されれば、鹿ノ台ふれあいホール、鹿ノ台中学校の3施設で機能集約することが望ましい。	
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか		指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか	
評価⑤	該当しない		評価⑥	地区施設	
補足⑤	—		補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。	

1次評価+2次評価のまとめ					
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。				
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転	<input type="checkbox"/> 廃止	
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。				

ID	908	施設名	桜ヶ丘小学校
施設分類	小学校		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.5	48.0 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	50.2	
耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	57.3 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	57.3	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	48.4	53.0 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	57.6	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に18.0%、40年後に13.7%減少する見込みである。	補足④	近隣に図書館があり、機能移転は可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	909	施設名	あすか野小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.3	50.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	68.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	68.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	33.2	45.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	58.4		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に39.6%、40年後に30.9%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地区施設
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域(全棟)、急傾斜地の土砂災害警戒区域(プール)に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	910	施設名	壱分小学校
施設分類	小学校		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	51.4	50.6 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.1	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	57.7 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	57.7	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	39.9	47.4 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.9	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に23.8%、40年後に14.6%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	911	施設名	生駒南第二小学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	49.0	47.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	42.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	34.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	34.0		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.9	38.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	24.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	不可能
補足①	児童数が減少しており、『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において示されている「望ましい学校規模の基準」を満たしていない小規模校であり、他の小学校と統廃合しなければ適正な規模を維持できない。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の6～11歳人口は、10年後に1.5%増加、40年後に1.0%減少する見込みである。	補足④	井出山スポーツ施設と機能集約、分担することが望ましい。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	小学校の施設を廃止する。廃止した場合は、転用を検討する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』で定める方針に沿って生駒南小学校との統廃合を検討する。		

ID	1101	施設名	生駒北小中学校
施設分類	小学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	64.6	65.6	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	69.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
耐震性能			0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	31.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	31.3		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	73.2	54.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	35.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、現時点では現状の教育環境を維持することが望ましいとしている。	補足②	小学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、児童数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	奈良先端科学技術大学院大学があり、一時的な居住者が推計に含まれているため、増加するという推計になっているが、実際には他の小学校と同様減少すると考えられる。	補足④	近隣に機能移転できる施設はない。また、地区連絡所となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

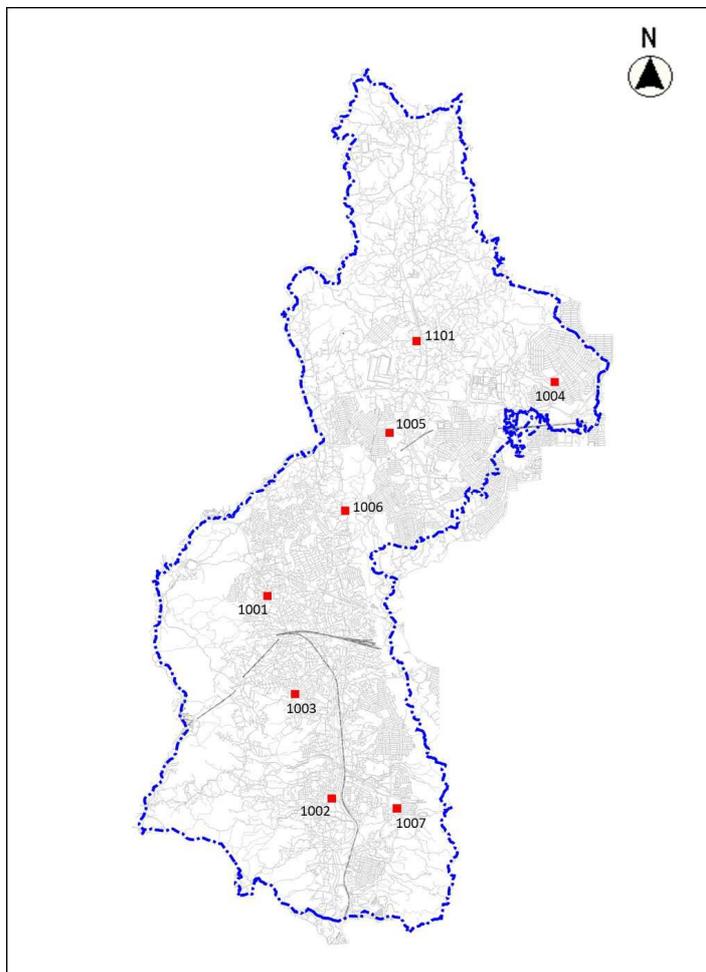
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

中学校

法的設置義務の有無	有	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			可能
民間による代替可能性	不可能	近隣自治体との連携可能性			不可能
人口1人あたりの延床面積※	生駒市	0.45㎡/人	類団平均	全体	0.49㎡/人
				合併市	0.59㎡/人
				合併市を除く	0.45㎡/人
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-14.7%	-14.2%	-12.3%	-12.0%	

※(出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
1001	生駒中学校
1002	生駒南中学校
1003	緑ヶ丘中学校
1004	鹿ノ台中学校
1005	上中学校
1006	光明中学校
1007	大瀬中学校
1101	生駒北小中学校

施設分類全体の方針

検討にあたっては、『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』で定める方針を基本とします。学校プールについては、小中学校が隣接する場合はプールを1ヶ所に集約化し、他の中学校については、費用対効果を検証したうえで民間プールの活用を検討します。

ID	1001	施設名	生駒中学校
施設分類	中学校		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	57.3	56.3 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	52.4	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	54.2 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.2	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.9	54.8 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.7	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の12～14歳人口は、10年後に10.1%、40年後に9.6%減少する見込みである。	補足④	近隣に芸術会館美楽来があり、機能移転は可能である。また、地区連絡所となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地区施設
補足⑤	土石流の土砂災害特別警戒区域(北館、体育館)、土石流の土砂災害警戒区域(全棟)に該当するため、土砂災害警戒区域については危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要し、土砂災害特別警戒区域については砂防えん堤などのハード対策を要する。	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	1002	施設名	生駒南中学校
施設分類	中学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.3	41.9	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	40.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	36.8	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	36.8		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	40.9	33.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	25.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	学校の統廃合及び統廃合に伴う移転については、『今後の生駒市立小・中学校教育のあり方について』の方針に沿って検討する。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の12~14歳人口は、10年後に9.8%、40年後に13.2%減少する見込みである。	補足④	同等以上の避難者の収容可能人数が確保されれば、南コミュニティセンター、南小学校の3施設で機能集約することが望ましい。また、地区連絡所となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行しているため、更新を実施する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』で定める方針に沿って、生駒南小学校、生駒南第二小学校との小中一貫教育の実施を検討する。		

ID	1003	施設名	緑ヶ丘中学校
施設分類	中学校		

1次評価						
評価項目			偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.0	45.6	=経過年数/法定耐用年数	
		資産老朽化比率	43.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)	
耐震性能			0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	56.0	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数	
		延床面積あたりの利用者数	56.0		=利用者数/延床面積	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	44.9	49.7	=年間総コスト/延床面積	
		利用者あたりコスト	54.5		=年間総コスト/利用者数	
リーダーチャート			ポートフォリオ分析			

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か		指標②	地元や民間等を活用することは可能か	
評価①	不可能		評価②	不可能	
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。		補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。	
指標③	将来の利用見込みはどうか		指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か	
評価③	減少		評価④	指定されている	
補足③	利用圏域内の12～14歳人口は、10年後に8.1%、40年後に11.7%減少する見込みである。		補足④	近隣に機能移転ができる施設はない。また、地区連絡所となっている。	
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか		指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか	
評価⑤	該当する		評価⑥	地区施設	
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域(全棟)に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。		補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。	

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	1004	施設名	鹿ノ台中学校
施設分類	中学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.5	47.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	49.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	42.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	42.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	60.5	55.6	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	50.7		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、小規模が予想されるが通学区域を変更することは困難であることが示されている。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の12～14歳人口は、10年後に33.9%、40年後に28.1%減少する見込みである。	補足④	同等以上の避難者の収容可能人数が確保されれば、鹿ノ台小学校、鹿ノ台ふれあいホール <small>の3施設</small> で機能集約することが望ましい。また、地区連絡所となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	1005	施設名	上中学校
施設分類	中学校		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.4	47.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	42.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	52.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	52.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.7	54.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.1		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の12～14歳人口は、10年後に27.4%、40年後に23.1%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転ができる施設はない。また、地区連絡所となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	1006	施設名	光明中学校
施設分類	中学校		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.8	47.3 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	41.5	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	54.9 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.9	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	37.9	44.4 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	50.9	
レーダーチャート			<p>ポर्टフォリオ分析</p>	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の12～14歳人口は、10年後に34.6%、40年後に28.3%減少する見込みである。	補足④	近隣に総合公園体育館があり、機能移転は可能である。また、地区連絡所となっている。自衛隊災害活動用緊急飛行場外離着陸場でプール及び消火栓を利用する。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地区施設
補足⑤	急傾斜地の土砂災害警戒区域(体育館、本館)に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	1007	施設名	大瀬中学校
施設分類	中学校		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	49.9	48.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	42.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	66.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	66.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	41.0	49.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	58.6		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、将来的にも「望ましい」学校規模が維持される見込みとなっている。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	利用圏域内の12～14歳人口は、10年後に18.6%、40年後に12.3%減少する見込みである。	補足④	近隣に機能移転ができる施設はない。また、地区連絡所となっている。自衛隊災害活動用緊急飛行場外離着陸場でプール及び消火栓を利用する。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

ID	1101	施設名	生駒北小中学校
施設分類	中学校		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	64.6	65.6 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	69.6	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	36.0 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	36.0	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	68.2	57.7 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	47.1	
レーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	『今後の生駒市立小・中学校のあり方について』において、現時点では現状の教育環境を維持することが望ましいとしている。	補足②	中学校であるため、地元や民間等の活用は不可能である。なお、生徒数の減少により生じた空き教室に他用途を受け入れることの検討はできる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されている
補足③	奈良先端科学技術大学院大学があり、一時的な居住者が推計に含まれているため、増加するという推計になっているが、実際には他の中学校と同様減少すると考えられる。	補足④	近隣に機能移転ができる施設はない。また、地区連絡所となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地区施設
補足⑤	—	補足⑥	各地区の年少人口の推移を考慮し、各地区にそれぞれ1施設の配置をする必要がある。

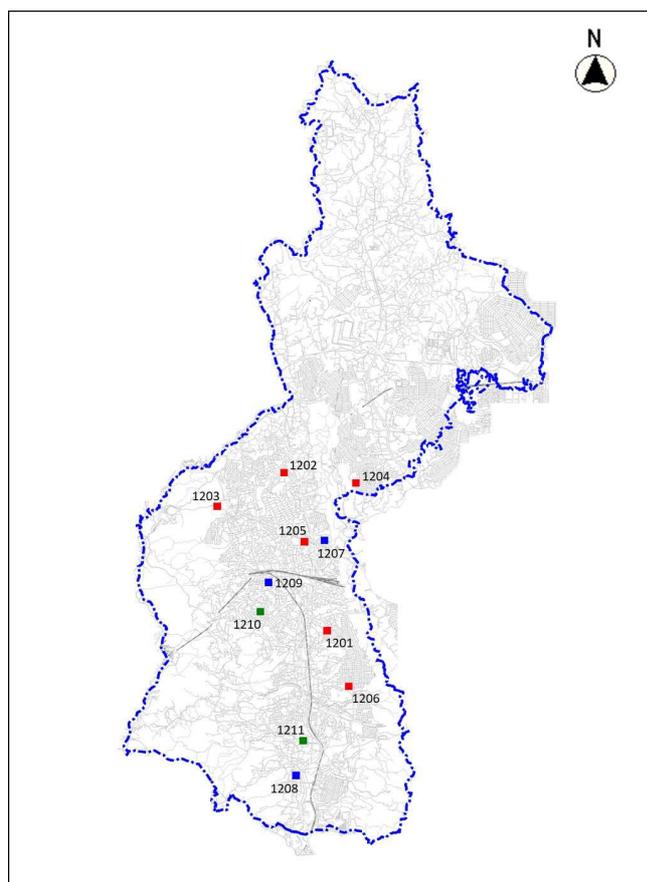
1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	セキュリティを考慮しながら、空き教室への他用途の受け入れの検討を行う。		

幼稚園・保育所・こども園

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—	
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			不可能	
人口1人あたりの延床面積 ※	幼稚園	生駒市	0.07m ² /人	類団平均	全体	0.02m ² /人
					合併市	0.01m ² /人
					合併市を除く	0.02m ² /人
	保育所		全体		0.04m ² /人	
			合併市		0.06m ² /人	
			合併市を除く		0.03m ² /人	
	こども園		全体		0.003m ² /人	
合併市		0.002m ² /人				
合併市を除く		0.003m ² /人				
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060		
	-14.7%	-14.2%	-12.3%	-12.0%		

※(出典)平成29年度公共施設状況調査カード

施設の配置



ID	施設名
1201	なばた幼稚園
1202	生駒台幼稚園
1203	俵口幼稚園
1204	あすか野幼稚園
1205	桜ヶ丘幼稚園
1206	壹分幼稚園
1207	ひがし保育園
1208	小平尾保育園
1209	中保育園
1210	認定こども園生駒幼稚園
1211	南こども園

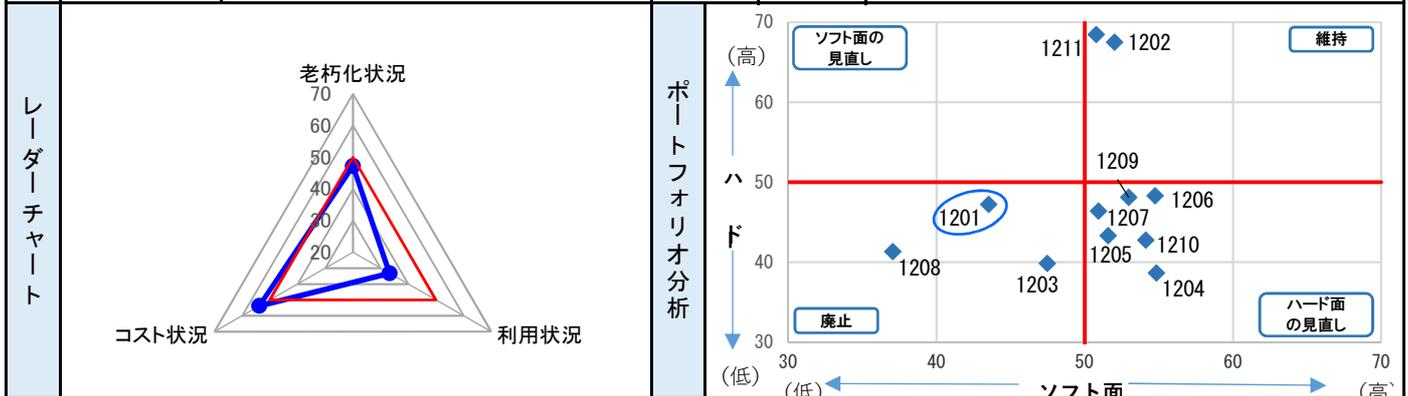
施設分類全体の方針

幼稚園については、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』で定める方針を基本とします。
 保育所及びこども園については、今後もニーズは増加すると見込まれますが、子どもの数は減少傾向であることから、民営化も視野に入れながら今後のあり方を検討します。

ID	1201	施設名	なばた幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.8	47.2 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	40.8	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	33.3	33.3 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	33.2	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	57.4	53.8 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	50.1	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	園児数が減少しており、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』において示されている「1学級あたりの園児数」及び「1園あたりの学級数」を満たしておらず、他の園と統合しなければ適正な規模を維持できない。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏内の3～5歳人口は、10年後に9.2%、40年後に7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	各地区の幼稚園ニーズや園児数の推移を考慮し、施設を配置する必要がある。

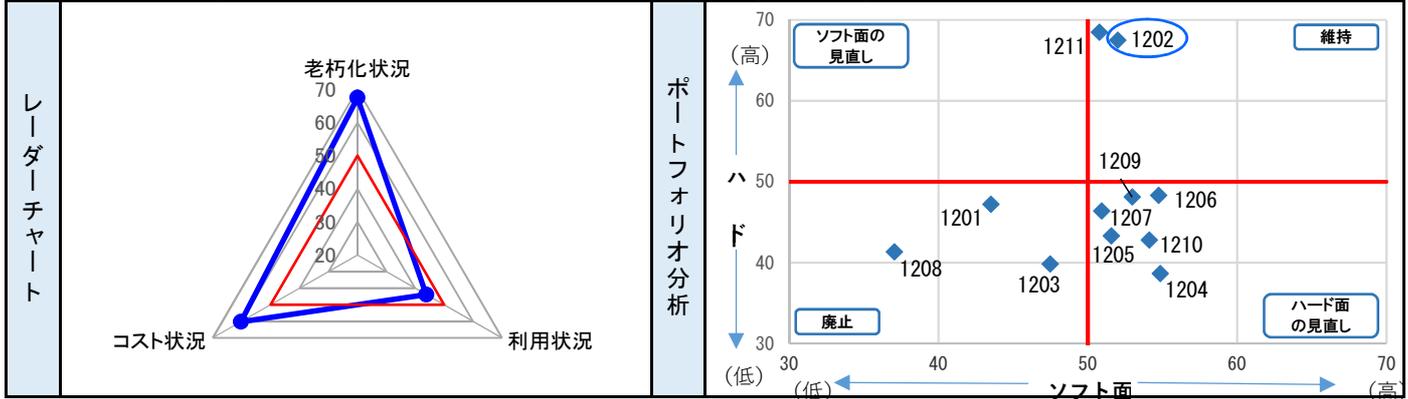
1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。廃止した場合は、転用又は譲渡等を検討する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	園児数が減少しているため、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って、専分幼稚園と統合する。		

ID	1202	施設名	生駒台幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	67.4	67.5 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	67.7	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	45.4	43.8 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	42.2	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	62.1	60.2 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	58.4	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って統合やこども園化を検討する。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の3~5歳人口は、10年後に9.2%、40年後に7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	各地区の幼稚園ニーズや園児数の推移を考慮し、施設を配置する必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って、俵口幼稚園と統合する。また、こども園化や民営化も視野に入れた検討を行う。		

ID	1203	施設名	俵口幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	38.4	39.8 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	45.6	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	36.8	39.6 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	42.4	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.8	55.3 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	53.8	
レーダーチャート			ポータルフォリオ分析	

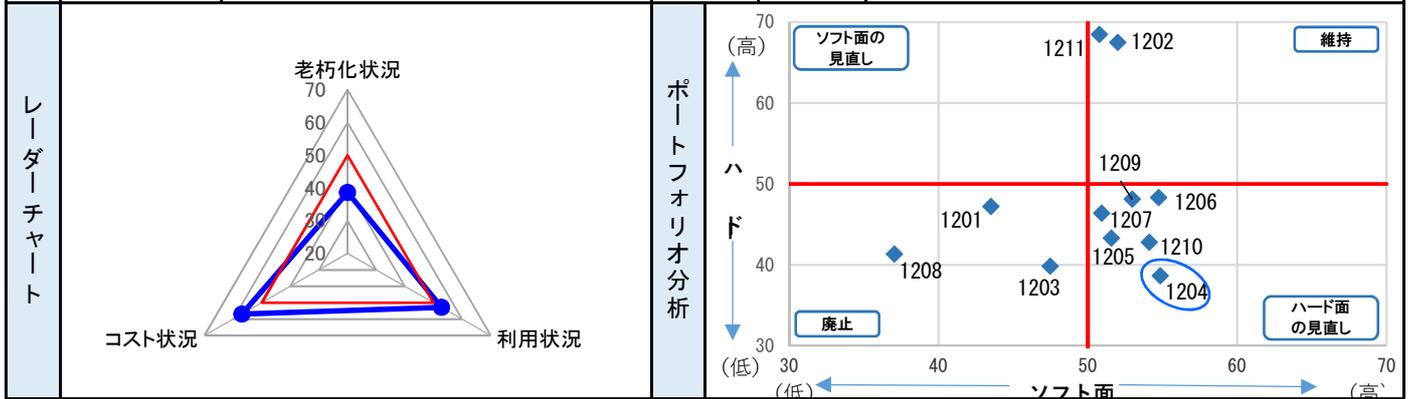
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	園児数が減少しており、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』において示されている「1学級あたりの園児数」及び「1園あたりの学級数」を満たしておらず、他の園と統合しなければ適正な規模を維持できない状況である。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の3～5歳人口は、10年後に9.2%、40年後に7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	各地区の幼稚園ニーズや園児数の推移を考慮し、施設を配置する必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。廃止した場合は、転用又は譲渡等を検討する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止		
補足	園児数が減少しているため、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って、生駒台幼稚園と統合する。		

ID	1204	施設名	あすか野幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価

評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	37.0	38.7 =経過年数/法定耐用年数 =減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
		資産老朽化比率	45.3	
	耐震性能	0.0	耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	42.2	52.8 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数 =利用者数/延床面積
		延床面積あたりの利用者数	63.4	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.2	56.9 =年間総コスト/延床面積 =年間総コスト/利用者数
		利用者あたりコスト	57.6	



2次評価

指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って統合やこども園化を検討する。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の3～5歳人口は、10年後に9.2%、40年後に7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域(管理棟、保育棟1)、急傾斜地の土砂災害警戒区域(管理棟、保育棟2)に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	各地区の幼稚園ニーズや園児数の推移を考慮し、施設を配置する必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ

ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を行い、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	園児数が減少しているため、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って民営化も視野に入れ、統合やこども園化を検討する。		

ID	1205	施設名	桜ヶ丘幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	43.0	43.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	45.1	49.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	53.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.2	53.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	54.2		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って統合やこども園化を検討する。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の3～5歳人口は、10年後に9.2%、40年後に7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	各地区の幼稚園ニーズや園児数の推移を考慮し、施設を配置する必要がある。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を行い、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	園児数が減少しているため、『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って民営化も視野に入れ、統合やこども園化を検討する。		

ID	1206	施設名	壱分幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.7	48.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	46.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	50.4	52.3	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	57.4	57.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か		指標②	地元や民間等を活用することは可能か	
評価①	可能		評価②	可能	
補足①	『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って統合やこども園化を検討する。		補足②	こども園化ができる。	
指標③	将来の利用見込みはどうか		指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か	
評価③	減少		評価④	指定されていない	
補足③	利用圏域内の3～5歳人口は、10年後に9.2%、40年後に7.3%減少する見込みである。		補足④	—	
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか		指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか	
評価⑤	該当する		評価⑥	いずれにも該当しない	
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域(全棟)に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。		補足⑥	各地区の幼稚園ニーズや園児数の推移を考慮し、施設を配置する必要がある。	

1次評価+2次評価のまとめ					
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	必要に応じ修繕等を行い、適切に維持管理を行う。				
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転	<input type="checkbox"/> 廃止	
補足	『今後の生駒市立幼稚園のあり方について』の方針に沿って、なばた幼稚園と統合する。また、こども園化や民営化も視野に入れた検討を行う。				

ID	1207	施設名	ひがし保育園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.9	46.4 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.1	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	63.8	61.9 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	60.1	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	34.6	39.9 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	45.3	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	増加する保育所ニーズを踏まえると他の保育所・こども園との統合はできない。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	微増	評価④	指定されていない
補足③	過去5年間(2015年度~2019年度)で、利用定員を約350人増やしたが、待機児童数は倍増している。今後も、幼児教育・保育の無償化の影響もあり、更に利用者は増加する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	年少人口の推移と保育ニーズを見極めながら、今後のあり方を検討する。		

ID	1208	施設名	小平尾保育園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.8	41.3 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	35.2	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	60.8	47.9 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	35.0	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	31.3	26.2 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	21.0	
レーダーチャート			ポートフォリオ分析 	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	増加する保育所ニーズを踏まえると他の保育所・こども園との統合はできない。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	微増	評価④	指定されていない
補足③	過去5年間(2015年度～2019年度)で、利用定員を約350人増やしたが、待機児童数は倍増している。今後も、幼児教育・保育の無償化の影響もあり、更に利用者は増加する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	年少人口の推移と保育ニーズを見極めながら、今後のあり方を検討する。		

ID	1209	施設名	中保育園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.2	48.1 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	51.6	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	64.1	63.0 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	61.8	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	38.1	43.0 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	47.8	
レーダーチャート			ポータルフォリオ分析	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	増加する保育所ニーズを踏まえると他の保育所・こども園との統合はできない。	補足②	こども園化ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	微増	評価④	指定されていない
補足③	過去5年間(2015年度～2019年度)で、利用定員を約350人増やしたが、待機児童数は倍増している。今後も、幼児教育・保育の無償化の影響もあり、更に利用者は増加する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	年少人口の推移と保育ニーズを見極めながら、今後のあり方を検討する。		

ID	1210	施設名	認定こども園生駒幼稚園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	42.6	42.8 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	43.4	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	52.8	53.5 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.3	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	54.3	54.7 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.1	
レーダーチャート			ポートフォリオ分析 	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	増加する保育所ニーズを踏まえると他の保育所・こども園との統合はできない。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	働き方の多様化が進む中で、保護者のライフスタイルの変化・保育ニーズの変化に対応でき、また「幼児教育・保育の無償化」により、働く保護者の増加に対応できるこども園の必要性は高まる。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	年少人口の推移と保育ニーズを見極めながら、今後のあり方を検討する。		

ID	1211	施設名	南こども園
施設分類	幼稚園・保育所・こども園		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	68.3	68.5 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	69.1	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	55.2	52.4 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	49.6	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	48.5	49.2 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	49.8	
レーダーチャート			ポートフォリオ分析 	

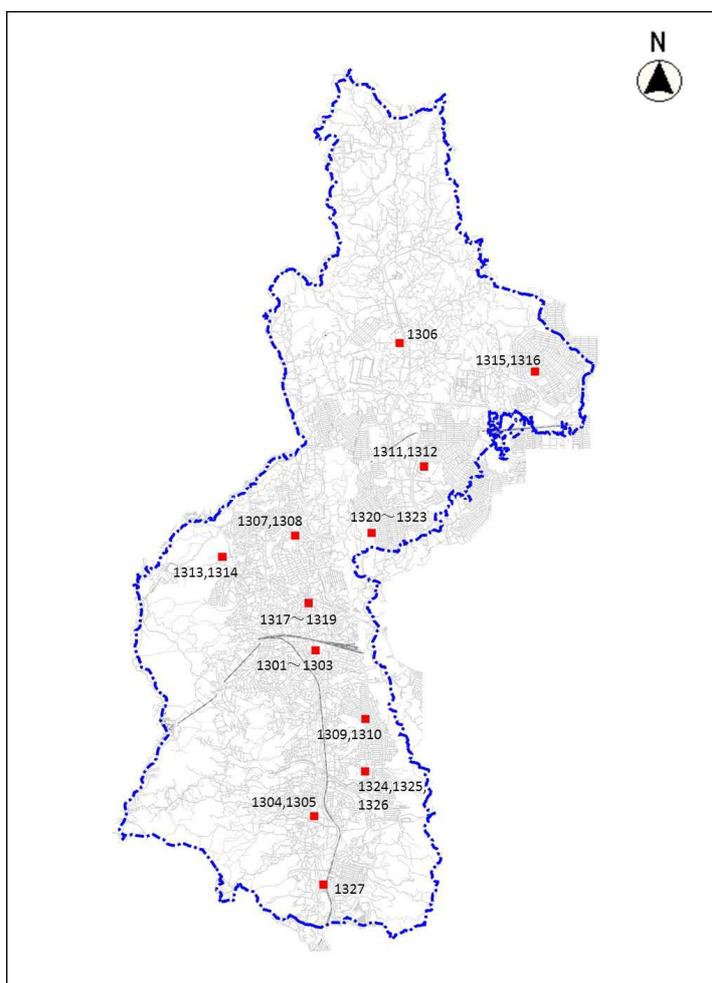
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	増加する保育所ニーズを踏まえると他の保育所・こども園との統合はできない。	補足②	—
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	働き方の多様化が進む中で、保護者のライフスタイルの変化・保育ニーズの変化に対応でき、また「幼児教育・保育の無償化」により、働く保護者の増加に対応できるこども園の必要性は高まる。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	年少人口の推移と保育ニーズを見極めながら、今後のあり方を検討する。		

学童保育所

法的設置義務の有無	無	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			不可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-14.7%	-14.2%	-12.3%	-12.0%	

施設の配置



ID	施設名
1301	生駒1学童保育所(北館西内)
1302	生駒2学童保育所(北館東内)
1303	生駒3学童保育所(北館西内)
1304	生駒南A学童保育所
1305	生駒南B学童保育所
1306	生駒北学童保育所(本館内)
1307	生駒台1学童保育所
1308	生駒台2学童保育所
1309	生駒東1学童保育所
1310	生駒東2学童保育所
1311	真弓1学童保育所(新館内)
1312	真弓2学童保育所(新館内)
1313	俵口1学童保育所
1314	俵口2学童保育所
1315	鹿ノ台1学童保育所(南館1内)
1316	鹿ノ台2学童保育所(北館内)
1317	桜ヶ丘1学童保育所
1318	桜ヶ丘2学童保育所
1319	桜ヶ丘3学童保育所
1320	あすか野1学童保育所
1321	あすか野2学童(本館内)
1322	あすか野3学童保育所
1323	あすか野4学童保育所
1324	壱分1学童保育所
1325	壱分2学童保育所
1326	壱分3学童保育所
1327	生駒南第二学童保育所

施設分類全体の方針

現在、学童保育のニーズは高まっていますが、将来的な児童数の減少を踏まえ、運営のあり方について検討します。
 校舎と別棟の学童保育所については、小学校内の空き教室への移転を検討し、移転できた場合、空いた別棟の学童保育所については、他用途での活用を検討します。

ID	1301	施設名	生駒1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	45.6	45.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	37.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	37.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.6	45.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	38.1		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1302	施設名	生駒2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	41.9	42.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	59.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	59.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.8	55.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	58.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1303	施設名	生駒3学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	45.6	45.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	42.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	42.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	50.6	47.9	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	45.1		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1304	施設名	生駒南A学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	59.0	59.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	60.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	38.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	38.5		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.7	50.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	44.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室を利用することができる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	生駒南小学校の更新時期まで適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1305	施設名	生駒南B学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	36.7	39.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	48.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	49.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	49.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	42.3	44.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	45.8		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室を利用することができる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	生駒南小学校の更新時期まで適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1306	施設名	生駒北学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	69.6	69.6	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	69.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	46.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	46.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	38.5	39.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	40.1		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1307	施設名	生駒台1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	36.7	38.3 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.7	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	57.9 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	57.9	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.4	55.2 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	58.0	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	老朽化が進行していることから、校舎の空き教室の利用を検討する。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	校舎内の空き教室への移転を検討する。学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1308	施設名	生駒台2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	59.0	59.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	60.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	52.9	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	52.9		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.5	54.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か		
評価①	可能	評価②	可能		
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。		
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か		
評価③	減少	評価④	指定されていない		
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—		
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか		
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない		
補足⑤	—	補足⑥	—		

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1309	施設名	生駒東1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	35.4	37.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	61.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	61.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	43.5	49.3	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	55.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	老朽化が進行していることから、校舎の空き教室の利用を検討する。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	校舎内の空き教室への移転を検討する。学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1310	施設名	生駒東2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	38.0	39.8 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.0	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	42.0 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	42.0	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	63.5	59.2 =年間総コスト/延床面積
利用者あたりコスト		54.9	=年間総コスト/利用者数	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	老朽化が進行していることから、校舎の空き教室の利用を検討する。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	校舎内の空き教室への移転を検討する。学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1311	施設名	真弓1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.0	51.5 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	45.5	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	70.0 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	70.0	
ソフト面	コスト状況	延床面積あたりコスト	36.8	46.5 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.2	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1312	施設名	真弓2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.0	51.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	45.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	60.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	60.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	48.1	52.7	=年間総コスト/延床面積
利用者あたりコスト		57.2	=年間総コスト/利用者数		
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1313	施設名	俵口1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	38.0	39.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	46.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	39.1	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	39.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	57.9	52.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	46.5		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	老朽化が進行していることから、校舎の空き教室の利用を検討する。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	校舎内の空き教室への移転を検討する。学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1314	施設名	俵口2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	57.7	58.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	59.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	44.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	44.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	53.4	51.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	49.0		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1315	施設名	鹿ノ台1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.3	45.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	63.5	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	63.5		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	37.1	45.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	53.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1316	施設名	鹿ノ台2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	46.3	45.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	54.1	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	54.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	44.9	48.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	51.5		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か		
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能		
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。		
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か		
評価③	減少	評価④	指定されていない		
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—		
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか		
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない		
補足⑤	—	補足⑥	—		

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1317	施設名	桜ヶ丘1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	69.1	69.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	70.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	40.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	40.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	58.4	53.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	48.4		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1318	施設名	桜ヶ丘2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	59.0	59.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	60.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	47.1	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	47.1		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	54.1	53.0	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	52.0		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1319	施設名	桜ヶ丘3学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	69.1	69.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	70.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	40.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	40.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	58.4	53.7	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	49.0		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1320	施設名	あすか野1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	69.1	69.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	70.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	50.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	50.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.8	56.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1321	施設名	あすか野2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	47.5	47.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	47.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	48.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	48.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.3	58.1	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	56.9		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	既に校舎内(空き教室)にて学童保育を行っている	評価②	可能
補足①	—	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	土石流の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1322	施設名	あすか野3学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	66.6	66.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	65.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	50.4	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	50.4		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.0	58.4	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	57.7		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1323	施設名	あすか野4学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	69.1	69.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	70.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	53.7	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	53.7		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	56.8	57.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	58.3		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か		
評価①	可能	評価②	可能		
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。		
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か		
評価③	減少	評価④	指定されていない		
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—		
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか		
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない		
補足⑤	—	補足⑥	—		

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1324	施設名	壱分1学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.8	54.5	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	57.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	48.6	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	48.6		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	59.8	58.5	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	57.2		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1325	施設名	壱分2学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	38.0	39.3	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	44.7		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	75.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	75.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	22.6	37.8	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	52.9		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート			ポर्टフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	老朽化が進行していることから、校舎の空き教室の利用を検討する。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	校舎内の空き教室への移転を検討する。学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1326	施設名	壱分3学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	70.8	71.0 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	71.6	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	-	40.0 =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	40.0	
ソフト面	コスト状況	延床面積あたりコスト	52.5	47.6 =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	42.8	
リーダーチャート				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	本施設の代わりに校舎の空き教室の利用を検討することはできる。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	<input type="checkbox"/> 廃止		
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

ID	1327	施設名	生駒南第二学童保育所
施設分類	学童保育所		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	38.8	38.9	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	39.2		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	-	36.2	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	36.2		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	27.8	18.2	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	8.7		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポートフォリオ分析		

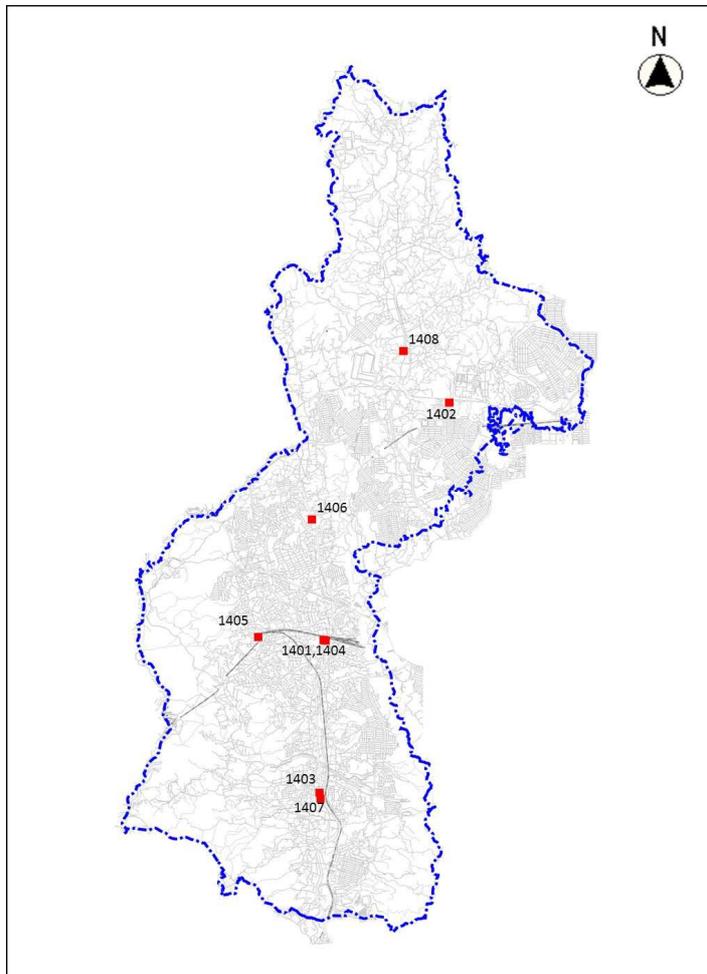
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	生駒南第二小学校と生駒南小学校との統廃合にあわせて検討を行う。	補足②	民間による学童保育所が普及していることから、民間の活用ができる。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	第2期生駒市子ども・子育て支援事業計画のニーズ調査では、学童保育のニーズ量は、今後5年間で低学年では14.9%、高学年では7.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	生駒南第二小学校と生駒南小学校との統廃合にあわせて、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	学童保育ニーズの増加を見据え、運営のあり方について検討する。		

消防施設

法的設置義務の有無	有	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			不可能
民間による代替可能性	不可能	近隣自治体との連携可能性			可能
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	
	-4.5%	-11.1%	-16.8%	-23.0%	

施設の配置



ID	施設名
1401	消防本部・消防署
1402	消防署北分署
1403	消防署南分署
1404	消防署救急施設(旧消防署東分署)
1405	消防団機動第1分団
1406	消防団機動第2分団
1407	消防団機動第3分団(旧消防署南分署)
1408	消防団機動第4分団

施設分類全体の方針

市民の生命、身体及び財産を火災から保護する役割を担う重要な施設であるため、老朽化に伴う修繕等を適切に実施します。

ID	1401	施設名	消防本部・消防署
施設分類	消防施設		

1次評価																						
評価項目		偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	49.4	48.6 =経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	45.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																		
ソフト面	利用状況	稼働率	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—	=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																	
		利用者あたりコスト	—	—	=年間総コスト/利用者数																	
リーダーチャート	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48.6</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62</td></tr> <tr><td>1404</td><td>48</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62</td></tr> <tr><td>1406</td><td>52</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48</td></tr> <tr><td>1408</td><td>68</td></tr> </tbody> </table>				施設ID	評価値	1401	48.6	1402	68	1403	62	1404	48	1405	62	1406	52	1407	48	1408	68
施設ID	評価値																					
1401	48.6																					
1402	68																					
1403	62																					
1404	48																					
1405	62																					
1406	52																					
1407	48																					
1408	68																					

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防本部は市域に1か所であり、また消防署・消防分署は、管轄ごとに3か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、高齢化の進行により、当面は救急出動が増加する見込みである。	補足④	災害対策本部の代替とされているため、機能移転は不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置が適正である。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化に伴う修繕等を適切に実施する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1402	施設名	消防署北分署
施設分類	消防施設		

1次評価																							
評価項目			偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	68.0	67.9	=経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	67.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																		
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																			
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																		
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																		
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62</td></tr> <tr><td>1404</td><td>48</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62</td></tr> <tr><td>1406</td><td>52</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48</td></tr> <tr><td>1408</td><td>68</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	評価値	1401	48	1402	68	1403	62	1404	48	1405	62	1406	52	1407	48	1408	68
施設ID	評価値																						
1401	48																						
1402	68																						
1403	62																						
1404	48																						
1405	62																						
1406	52																						
1407	48																						
1408	68																						

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防署・消防分署は、管轄ごとに3か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、高齢化の進行により、当面は救急出動が増加する見込みである。	補足④	地域防災拠点となっている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置が適正である。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1403	施設名	消防署南分署
施設分類	消防施設		

1次評価				
評価項目		偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	62.1	61.5 =経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	59.0	
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	—	— =年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—	
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	— =年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—	
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防署・消防分署は、管轄ごとに3か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、高齢化の進行により、当面は救急出動が増加する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	地域施設
補足⑤	浸水想定区域「～0.5m未満の区域」に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	北・中・南の各地区にそれぞれ1施設の配置が適正である。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1404	施設名	消防署救急施設(旧消防署東分署)
施設分類	消防施設		

1次評価																							
評価項目			偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	44.3	46.6	=経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	56.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																		
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																		
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																		
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																		
リーダーチャート			ポートフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ハード面の見直し (ポートフォリオ分析)</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>ハード面の見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62</td></tr> <tr><td>1404</td><td>45</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62</td></tr> <tr><td>1406</td><td>52</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48</td></tr> <tr><td>1408</td><td>68</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	ハード面の見直し	1401	48	1402	68	1403	62	1404	45	1405	62	1406	52	1407	48	1408	68
施設ID	ハード面の見直し																						
1401	48																						
1402	68																						
1403	62																						
1404	45																						
1405	62																						
1406	52																						
1407	48																						
1408	68																						

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	救急施設は消防署(本署)と不可分の施設であるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、高齢化の進行により、当面は救急出動が増加する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	中地区を管轄する消防署(本署)の附属施設として一体で活用している。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化に伴う修繕等を適切に実施する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1405	施設名	消防団機動第1分団
施設分類	消防施設		

1次評価																							
評価項目			偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	62.5	61.8	=経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	59.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																		
	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																		
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																		
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																		
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポर्टフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62</td></tr> <tr><td>1404</td><td>46</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62</td></tr> <tr><td>1406</td><td>51</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48</td></tr> <tr><td>1408</td><td>69</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	評価値	1401	48	1402	68	1403	62	1404	46	1405	62	1406	51	1407	48	1408	69
施設ID	評価値																						
1401	48																						
1402	68																						
1403	62																						
1404	46																						
1405	62																						
1406	51																						
1407	48																						
1408	69																						

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防団施設は、管轄ごとに4か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市内を小学校区を基準として4つの管轄に分け、4か所の機動分団を配置している。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1406	施設名	消防団機動第2分団
施設分類	消防施設		

1次評価																							
評価項目			偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	53.4	51.6	=経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	44.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																		
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																			
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																		
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																		
リーダーチャート			ポートフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポートフォリオ分析</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>スコア</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62</td></tr> <tr><td>1404</td><td>46</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62</td></tr> <tr><td>1406</td><td>52</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48</td></tr> <tr><td>1408</td><td>68</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	スコア	1401	48	1402	68	1403	62	1404	46	1405	62	1406	52	1407	48	1408	68
施設ID	スコア																						
1401	48																						
1402	68																						
1403	62																						
1404	46																						
1405	62																						
1406	52																						
1407	48																						
1408	68																						

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防団施設は、管轄ごとに4か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市内を小学校区を基準として4つの管轄に分け、4か所の機動分団を配置している。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1407	施設名	消防団機動第3分団(旧消防署南分署)
施設分類	消防施設		

1次評価																							
評価項目			偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.3	48.0	=経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	46.7		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																		
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																			
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																		
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																		
リーダーチャート			ポートフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ハード面の見直し (ポートフォリオ分析)</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>ハード面の見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68.0</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>1404</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62.0</td></tr> <tr><td>1406</td><td>52.0</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48.0</td></tr> <tr><td>1408</td><td>68.0</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	ハード面の見直し	1401	48.0	1402	68.0	1403	62.0	1404	48.0	1405	62.0	1406	52.0	1407	48.0	1408	68.0
施設ID	ハード面の見直し																						
1401	48.0																						
1402	68.0																						
1403	62.0																						
1404	48.0																						
1405	62.0																						
1406	52.0																						
1407	48.0																						
1408	68.0																						

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防団施設は、管轄ごとに4か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市内を小学校区を基準として4つの管轄に分け、4か所の機動分団を配置している。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化に伴う修繕等を適切に実施する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1408	施設名	消防団機動第4分団
施設分類	消防施設		

1次評価																							
評価項目			偏差値	評価値	備考																		
ハード面	老朽化状況	老朽化率	69.3	69.2	=経過年数/法定耐用年数																		
		資産老朽化比率	68.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																		
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																			
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																		
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																		
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																		
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																		
リーダーチャート			ポートフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポートフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1401</td><td>48</td></tr> <tr><td>1402</td><td>68</td></tr> <tr><td>1403</td><td>62</td></tr> <tr><td>1404</td><td>46</td></tr> <tr><td>1405</td><td>62</td></tr> <tr><td>1406</td><td>52</td></tr> <tr><td>1407</td><td>48</td></tr> <tr><td>1408</td><td>69.2</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	評価値	1401	48	1402	68	1403	62	1404	46	1405	62	1406	52	1407	48	1408	69.2
施設ID	評価値																						
1401	48																						
1402	68																						
1403	62																						
1404	46																						
1405	62																						
1406	52																						
1407	48																						
1408	69.2																						

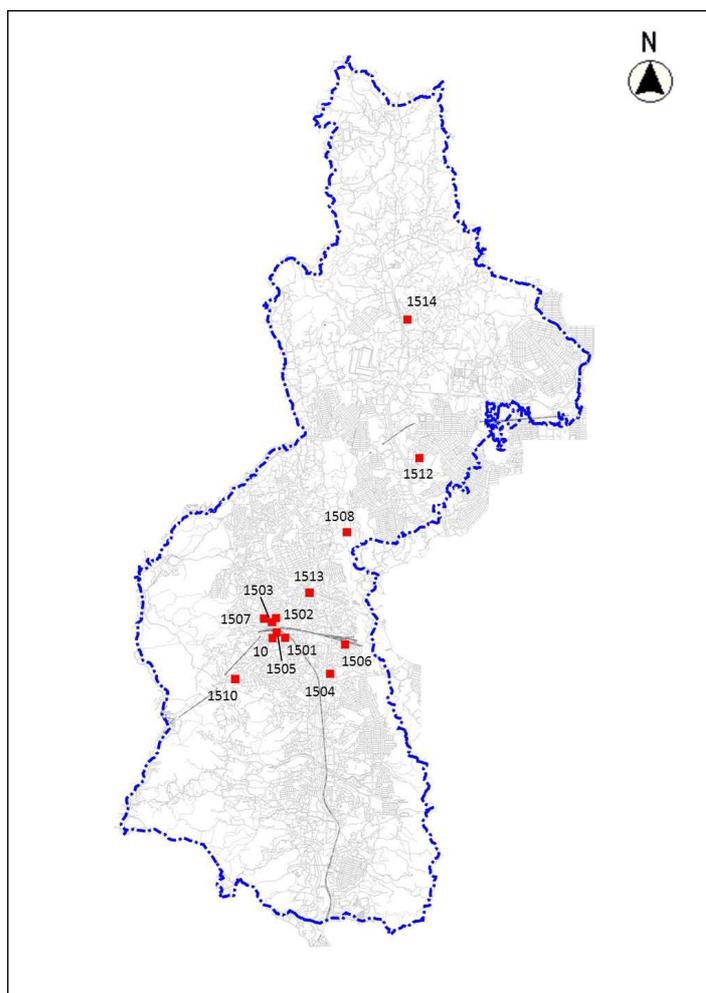
2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	消防団施設は、管轄ごとに4か所が配置されており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	消防施設であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	地域施設
補足⑤	—	補足⑥	市内を小学校区を基準として4つの管轄に分け、4か所の機動分団を配置している。

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

その他施設

法的設置義務の有無	—	法的設置義務が有る場合、数の削減は可能か			—
民間による代替可能性	可能	近隣自治体との連携可能性			—
人口1人あたりの延床面積	生駒市	—	類団平均	—	
利用年齢層の将来人口推計 (2019年人口に対する増減率)	2030	2040	2050	2060	—
	—	—	—	—	

施設の配置



ID	施設名
1501	生駒市役所
10	市民活動推進センター ららポート
1502	アコールいこまもやい館
1503	アンテナショップおちやせん
1504	市営火葬場
1505	セラビーいこま
1506	生駒市立病院
1507	教育支援施設
1508	学校給食センター
1510	旧門前町児童会館
1512	旧真弓学童保育所
1513	旧桜ヶ丘1学童保育所
1514	生駒北学校給食センター

施設分類全体の方針

その他の施設については、建物の老朽化に伴う修繕等を実施又は他施設への移転を検討します。
現在使用していない施設は、建物を廃止します。

ID	1501	施設名	生駒市役所
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	48.8	48.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	48.1		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	本庁舎機能を移転することができる既存の他施設はない。	補足②	地方公共団体生駒市の本庁舎であることから、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	本庁舎機能の一つである災害対策本部が設置される。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	市域・拠点施設
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	10	施設名	市民活動推進センター ららポート
施設分類	その他		

1次評価																															
評価項目			偏差値	評価値	備考																										
ハード面	老朽化状況	老朽化率	39.6	43.8	=経過年数/法定耐用年数																										
		資産老朽化比率	60.7		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																										
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																											
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																										
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																										
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																										
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																										
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>ハード面の見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1501</td><td>48</td></tr> <tr><td>1502</td><td>43</td></tr> <tr><td>1503</td><td>60</td></tr> <tr><td>1504</td><td>45</td></tr> <tr><td>1505</td><td>54</td></tr> <tr><td>1506</td><td>67</td></tr> <tr><td>1507</td><td>41</td></tr> <tr><td>1508</td><td>43</td></tr> <tr><td>1510</td><td>29</td></tr> <tr><td>1512</td><td>24</td></tr> <tr><td>1513</td><td>28</td></tr> <tr><td>1514</td><td>70</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	ハード面の見直し	1501	48	1502	43	1503	60	1504	45	1505	54	1506	67	1507	41	1508	43	1510	29	1512	24	1513	28	1514	70
施設ID	ハード面の見直し																														
1501	48																														
1502	43																														
1503	60																														
1504	45																														
1505	54																														
1506	67																														
1507	41																														
1508	43																														
1510	29																														
1512	24																														
1513	28																														
1514	70																														

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	可能
補足①	利用圏域内で、事務所、会議室、交流スペース等の用途を持つ他施設への移転を検討することができる。	補足②	NPO法人が運営する自治体もある。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	協働の取組は今後も重要であることから、老朽化が進行している本施設の代わりに、利用圏域内で事務所、会議室、交流スペース等の用途を持つ他施設への移転を検討する。		

ID	1502	施設名	アコールいこまもやい館
施設分類	その他		

1次評価																																
評価項目		偏差値	評価値	備考																												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	60.2	59.5	=経過年数/法定耐用年数																											
		資産老朽化比率	56.9		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																											
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																												
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																											
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																											
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																											
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																											
リーダーチャート	ポータルフォリオ分析		<table border="1"> <caption>ハード面の見直し比率</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>比率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1501</td><td>48</td></tr> <tr><td>10</td><td>43</td></tr> <tr><td>1502</td><td>59.5</td></tr> <tr><td>503</td><td>67</td></tr> <tr><td>1504</td><td>45</td></tr> <tr><td>1505</td><td>54</td></tr> <tr><td>1506</td><td>67</td></tr> <tr><td>1507</td><td>41</td></tr> <tr><td>1508</td><td>43</td></tr> <tr><td>1510</td><td>29</td></tr> <tr><td>1512</td><td>25</td></tr> <tr><td>1513</td><td>28</td></tr> <tr><td>1514</td><td>70</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	比率	1501	48	10	43	1502	59.5	503	67	1504	45	1505	54	1506	67	1507	41	1508	43	1510	29	1512	25	1513	28	1514	70
施設ID	比率																															
1501	48																															
10	43																															
1502	59.5																															
503	67																															
1504	45																															
1505	54																															
1506	67																															
1507	41																															
1508	43																															
1510	29																															
1512	25																															
1513	28																															
1514	70																															

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	民間等を活用している
補足①	テレワーク&インキュベーションセンターとして設備が整備されていることから、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	1~2階部分は社会福祉法人へ貸し出しており、3~4階部分は指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	テレワーク&インキュベーションセンター部分の利用者数は、開設以来、順調に増加している。(2017~2018年で利用者が約1.9倍)今後もテレワーク人口は増加すると見込んでいる。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1503	施設名	アンテナショップおちやせん
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	67.0	67.0	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	66.9		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポートフォリオ分析		

2次評価					
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か		
評価①	可能	評価②	商工会議所へ店舗運営を委託している		
補足①	集客力が見込める場所であれば、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	—		
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か		
評価③	増加	評価④	指定されていない		
補足③	外国人観光客を含む奈良県への観光客数は増加し続けており(奈良市を除く県北西部の2013~2017年の増加率12.4%)、国・県の統計上、今後も増加が続くことが推計されている。	補足④	—		
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか		
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない		
補足⑤	—	補足⑥	—		

1次評価+2次評価のまとめ				
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止	
補足	適切に維持管理を行う。			
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	—			

ID	1504	施設名	市営火葬場
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	43.5	45.8	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	54.9		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
レーダーチャート	<p>ポートフォリオ分析</p> <p>ハード面の見直し</p> <p>1501 10 1502 1503 1504 1505 1506 1507 1508 1510 1512 1513 1514</p>				

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	民間等に委託している
補足①	市内で唯一の火葬場であるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	民間事業者に運転業務及び保守点検業務を委託している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	横ばい	評価④	指定されていない
補足③	一定の利用は見込まれる。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当する	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	急傾斜地の土砂災害警戒区域に該当するため、危険の周知や警戒避難体制の整備などのソフト対策を要する。	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	必要に応じ修繕等を実施し、適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1505	施設名	セラビーいこま
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	55.2	54.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	50.9		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	健康センター及び休日夜間応急診療所などの保健、医療、福祉の複合的用途を有しており、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	休日夜間応急診療業務については委託しているが、その他については、市の部署であるため、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、休日夜間応急診療所については、市内外からの利用がある。	補足④	災害時、医療救護拠点及び医薬品集積センターとして開設することから、その機能を移転することは不可能である。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1506	施設名	生駒市立病院
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	67.8	67.1	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	64.5		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	指定管理者制度を導入している
補足①	病院施設であるため、本施設の代わりに既存の他施設を利用することは不可能である。	補足②	指定管理料がかからない方式での指定管理者制度を導入している。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	増加	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の総人口は、10年後に4.5%、40年後に23.0%減少する見込みであるが、老年人口は増加する見込みであるとともに、保健・福祉行政と連携したニーズが求められる。	補足④	市地域防災計画で、救護所に対応できない患者に対し、後方医療活動を実施する旨規定されている。
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	—		

ID	1507	施設名	教育支援施設
施設分類	その他		

1次評価																																	
評価項目			偏差値	評価値	備考																												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	37.3	41.1	=経過年数/法定耐用年数																												
		資産老朽化比率	56.3		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																												
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																													
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																												
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																												
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																												
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1501</td><td>48</td></tr> <tr><td>10</td><td>44</td></tr> <tr><td>1502</td><td>60</td></tr> <tr><td>1503</td><td>66</td></tr> <tr><td>1504</td><td>46</td></tr> <tr><td>1505</td><td>54</td></tr> <tr><td>1506</td><td>66</td></tr> <tr><td>1507</td><td>41.1</td></tr> <tr><td>508</td><td>43</td></tr> <tr><td>1510</td><td>29</td></tr> <tr><td>1512</td><td>25</td></tr> <tr><td>1513</td><td>28</td></tr> <tr><td>1514</td><td>70</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	評価値	1501	48	10	44	1502	60	1503	66	1504	46	1505	54	1506	66	1507	41.1	508	43	1510	29	1512	25	1513	28	1514	70
施設ID	評価値																																
1501	48																																
10	44																																
1502	60																																
1503	66																																
1504	46																																
1505	54																																
1506	66																																
1507	41.1																																
508	43																																
1510	29																																
1512	25																																
1513	28																																
1514	70																																

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	不可能
補足①	不登校、通級指導、教育相談、ニート、ひきこもり等困難な状況にある子ども・若者の自立に向けた支援は必要であるが、必要なスペースが確保できれば、本施設の代わりに既存の他施設を利用することができる。	補足②	配慮が必要な児童等のための施設であり、地元や民間等の活用は不可能である。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の6～14歳人口は、10年後に11.2%、40年後に23.3%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	老朽化が進行していることから、建物を廃止する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転 <input type="checkbox"/> 廃止
補足	不登校、通級指導、教育相談、ニート、ひきこもり等困難な状況にある子ども・若者の自立に向けた支援は必要である。今後については他施設への移転も含めて検討する。		

ID	1508	施設名	学校給食センター
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目		偏差値	評価値	備考	
ハード面	老朽化状況	老朽化率	44.5	43.4	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	38.8		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10	
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	生駒北学校給食センターは、本センターの配食数を受入れる規模を有していないため、本施設の代わりに利用することは不可能である。	補足②	PFIにより管理・運営されている施設がある。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の6～14歳人口は、10年後に18.4%、40年後に15.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	当面は現状を維持する。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	当面は現状を維持する。		

ID	1510	施設名	旧門前町児童会館
施設分類	その他		

1次評価																																	
評価項目			偏差値	評価値	備考																												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	41.9	39.6	=経過年数/法定耐用年数																												
		資産老朽化比率	30.4		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																												
ハード面	耐震性能		-10.0		耐震基準を満たしていなければ-10																												
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																												
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																												
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																												
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>ハード面の見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1501</td><td>48</td></tr> <tr><td>10</td><td>44</td></tr> <tr><td>1502</td><td>60</td></tr> <tr><td>1503</td><td>68</td></tr> <tr><td>1504</td><td>46</td></tr> <tr><td>1505</td><td>55</td></tr> <tr><td>1506</td><td>68</td></tr> <tr><td>1507</td><td>42</td></tr> <tr><td>1508</td><td>44</td></tr> <tr><td>1510</td><td>30</td></tr> <tr><td>1512</td><td>25</td></tr> <tr><td>1513</td><td>28</td></tr> <tr><td>1514</td><td>72</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	ハード面の見直し	1501	48	10	44	1502	60	1503	68	1504	46	1505	55	1506	68	1507	42	1508	44	1510	30	1512	25	1513	28	1514	72
施設ID	ハード面の見直し																																
1501	48																																
10	44																																
1502	60																																
1503	68																																
1504	46																																
1505	55																																
1506	68																																
1507	42																																
1508	44																																
1510	30																																
1512	25																																
1513	28																																
1514	72																																

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	児童会館としての用途は廃止され、今後も使用する見込がない。	補足②	既に児童会館としての用途は廃止され、現在使用されていない施設であり、今後も児童会館として使用する予定がない。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	—	評価④	指定されていない
補足③	—	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1512	施設名	旧真弓学童保育所
施設分類	その他		

1次評価					
評価項目			偏差値	評価値	備考
ハード面	老朽化状況	老朽化率	24.9	23.7	=経過年数/法定耐用年数
		資産老朽化比率	—		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)
ハード面	耐震性能		0.0		耐震基準を満たしていなければ-10
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析		

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	不可能
補足①	既に学童保育所としての用途は廃止されている。	補足②	既に学童保育所としての用途は廃止され、現在使用されていない施設であり、今後も学童保育所として使用する予定がない。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	—	評価④	指定されていない
補足③	—	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1513	施設名	旧桜ヶ丘1学童保育所
施設分類	その他		

1次評価																																	
評価項目			偏差値	評価値	備考																												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	24.9	28.9	=経過年数/法定耐用年数																												
		資産老朽化比率	45.0		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																												
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																													
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																												
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																												
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																												
リーダーチャート			ポータルフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポータルフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>評価値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1501</td><td>48</td></tr> <tr><td>10</td><td>44</td></tr> <tr><td>1502</td><td>60</td></tr> <tr><td>1503</td><td>66</td></tr> <tr><td>1504</td><td>46</td></tr> <tr><td>1505</td><td>54</td></tr> <tr><td>1506</td><td>66</td></tr> <tr><td>1507</td><td>41</td></tr> <tr><td>1508</td><td>43</td></tr> <tr><td>1510</td><td>30</td></tr> <tr><td>1512</td><td>25</td></tr> <tr><td>1513</td><td>29</td></tr> <tr><td>1514</td><td>70</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	評価値	1501	48	10	44	1502	60	1503	66	1504	46	1505	54	1506	66	1507	41	1508	43	1510	30	1512	25	1513	29	1514	70
施設ID	評価値																																
1501	48																																
10	44																																
1502	60																																
1503	66																																
1504	46																																
1505	54																																
1506	66																																
1507	41																																
1508	43																																
1510	30																																
1512	25																																
1513	29																																
1514	70																																

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	可能	評価②	不可能
補足①	学童保育所としての用途は廃止され、現在桜ヶ丘小学校のクラブ活動に使用している。学校内にクラブ活動のスペースを確保して移転することができる。	補足②	既に学童保育所としての用途は廃止され、現在使用されていない施設であり、今後も学童保育所として使用する予定がない。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	—	評価④	指定されていない
補足③	—	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、経年劣化を改善する改修又は修繕	<input checked="" type="checkbox"/> 廃止
補足	建物を廃止する。		
ソフト面	<input type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		

ID	1514	施設名	生駒北学校給食センター
施設分類	その他		

1次評価																																	
評価項目			偏差値	評価値	備考																												
ハード面	老朽化状況	老朽化率	70.8	71.0	=経過年数/法定耐用年数																												
		資産老朽化比率	71.6		=減価償却累計額/(取得価額+過去の更新改修費)																												
	耐震性能	0.0		耐震基準を満たしていなければ-10																													
ソフト面	利用状況	稼働率	—	—	=年間利用コマ数/年間利用可能コマ数																												
		延床面積あたりの利用者数	—		=利用者数/延床面積																												
	コスト状況	延床面積あたりコスト	—	—	=年間総コスト/延床面積																												
		利用者あたりコスト	—		=年間総コスト/利用者数																												
リーダーチャート			ポर्टフォリオ分析	<table border="1"> <caption>ポर्टフォリオ分析データ</caption> <thead> <tr> <th>施設ID</th> <th>ハード面の見直し</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1501</td><td>48</td></tr> <tr><td>10</td><td>44</td></tr> <tr><td>1502</td><td>60</td></tr> <tr><td>1503</td><td>66</td></tr> <tr><td>1504</td><td>46</td></tr> <tr><td>1505</td><td>54</td></tr> <tr><td>1506</td><td>66</td></tr> <tr><td>1507</td><td>41</td></tr> <tr><td>1508</td><td>43</td></tr> <tr><td>1510</td><td>30</td></tr> <tr><td>1512</td><td>25</td></tr> <tr><td>1513</td><td>29</td></tr> <tr><td>1514</td><td>71</td></tr> </tbody> </table>		施設ID	ハード面の見直し	1501	48	10	44	1502	60	1503	66	1504	46	1505	54	1506	66	1507	41	1508	43	1510	30	1512	25	1513	29	1514	71
施設ID	ハード面の見直し																																
1501	48																																
10	44																																
1502	60																																
1503	66																																
1504	46																																
1505	54																																
1506	66																																
1507	41																																
1508	43																																
1510	30																																
1512	25																																
1513	29																																
1514	71																																

2次評価			
指標①	本施設の代わりに既存の他施設を利用することは可能か	指標②	地元や民間等を活用することは可能か
評価①	不可能	評価②	可能
補足①	給食を作るための設備を有する施設であること、また2019年に建設した施設であることから、他施設に移転することは不可能である。	補足②	PFIによる運営を行っている。
指標③	将来の利用見込みはどうか	指標④	避難所指定されているか 指定されている場合、機能の移転は可能か
評価③	減少	評価④	指定されていない
補足③	利用圏域内の6～14歳人口は、10年後に18.4%、40年後に15.0%減少する見込みである。	補足④	—
指標⑤	土砂災害警戒区域・浸水想定区域に該当するか	指標⑥	「市域・拠点施設」「地域施設」「地区施設」のいずれに該当するか
評価⑤	該当しない	評価⑥	いずれにも該当しない
補足⑤	—	補足⑥	—

1次評価+2次評価のまとめ			
ハード面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 更新、 経年劣化を改善する改修又は修繕	<input type="checkbox"/> 廃止
補足	適切に維持管理を行う。		
ソフト面	<input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 運営形態の見直し	<input type="checkbox"/> 既存の他施設へ移転
補足	—		